

2007 年度 昭和会誌 診療部門



財団法人 昭和会 IMAKIIRE GENERAL HOSPITAL SHOWAKAI CLINIC

今給黎総合病院 昭和会クリニック

もくじ

- 3. 総合内科
- 4. 血液内科
- 5. 糖尿病内科
- 6. 消化器内科
- 7. 循環器内科
- 9. 呼吸器内科
- 14. 神経内科
- 18. 外科
- 20. 呼吸器外科
- 23. 整形外科
- 28. 形成外科
- 30. 脳神経外科
- 32. 産婦人科
- 35. 新生児科
- 42. 小児科
- 44. 泌尿器科
- 45. 眼科
- 46. 耳鼻咽喉科
- 48. 皮膚科
- 49. 麻酔科
- 51. 放射線科
- 53. 連携診療科
- 54. 病理部
- 57. 歯科口腔外科

総合内科

総合内科部長 生野 博久

当院総合内科は以前斉藤先生が部長として勤務されていましたが、しばらく担当がおらず、平成 16 年より生野博久と二木真琴先生が担当し再開しました。昨年の 4 月から島悦子先生が当科の診療に参加していただき 3 人の体制となりました。

総合内科の業務は、外来では感染症、健康診断、ワクチン接種、午後の外来のバックアップ、入院では感染症、不明熱の診断治療などです。

今年の 4 月より特定健診が開始されました。これは最近話題の代謝症候群を診断し治療、指導するのを目的としています。脳出血、脳梗塞、心筋梗塞の原因となる動脈硬化には以前より高血圧、高脂血症、肥満、糖尿病などの危険因子があるとされていました。代謝症候群とは特に腹部に内臓脂肪の蓄積がある場合は軽い危険因子の組み合わせにより動脈硬化に非常に悪さをするという概念です。早期に自覚症状のある前に動脈硬化の危険因子を発見し治療するためには、健康診断は重要であると思われます。今年は健康教室で「動脈硬化」「代謝症候群」について一般の方へ講演を行いました。

当科は高齢者の患者様が特に多く、病気の治療は当然ですが、治癒した後の退院先での follow up が大変重要と思われます。三人の専門性が利用できる場所は生かし、ケースワーカー、在宅医療部との連携を保ち、より良い quality of life を目指した治療を考えていきたいと思えます。

平成 17 年より開始したのは NST (nutrition support team) の活動です。これは患者様の栄養状態を把握して、栄養補給を補助する多種職種を含めた委員会活動です。主治医が希望する低栄養状態の患者様を栄養士、PT、ST、薬剤師、看護師と共に回診を行い、主治医への助言、補助を行っています。昨年の 5 月からは入院時血清アルブミン値が低い患者様を検査室に頼んで抽出し、主治医へ連絡を取って希望する患者様を回診するスクリーニングも開始しました。

当科としては「できることからコツコツと」をモットーに地道に診療、委員会活動を続けようと思えます。

血液内科

血液内科部長 小濱 浩介

今給黎総合病院血液内科は、いままで大学からの非常勤での運営でしたが、H19年12月より常勤を配置し、正式に診療科として診療活動を開始しました。H19年度は実質的に12月からの4ヶ月間のみの実績となり、診療体制の構築を行う地ならしの期間となっています。

そのわずか4ヶ月の間ではありますが、入院、外来とも患者数は毎月着実に増加傾向にあります。それは当院が放射線治療施設や多くの専門診療科を併設した総合病院であることも大きな要因と考えられます。

血液内科領域の特徴として、治療が比較的長期化しやすいのですが、4ヶ月間の新患入院は40名で、1日あたりの入院患者数は平均して12-15名程度となっています。主な疾患は悪性リンパ腫、成人T細胞白血病リンパ腫、多発性骨髄腫、慢性骨髄増殖性疾患、紫斑病、膠原病などです。

診療体制は小濱部長（血液学会認定血液専門医、同指導医、がん治療認定医機構認定医）に加えて、非常勤で大学血液内科から鈴木医師が週1-2回勤務し、大学との連携を構築、さらに春には非常勤医師増員となっています。また現場に根ざした研究活動も進めており、H20年度は学会、研究会活動も予定しています。次年度より詳細な診療実績などの報告を提示していく予定です。

糖尿病内科

糖尿病内科部長 盛満 慎吾

時の流れは速いもので、今年も業績集を作成する時期になりましたので、ここに昨年度一年間の内分泌・糖尿病外来のあゆみについて簡単に書かせて頂きます。

まず、外来の診療体制は、昨年と同様に鹿児島大学大学院 循環器・呼吸器・代謝内科学講座（旧第一内科）より、前田芽美医師を引き続き非常勤医師として派遣して頂けましたが、非常勤医師として勤務しておりました岩元理恵医師が、家庭の都合により5月末で退職となったために、非常勤医師の佐藤みき医師と奥寛子医師（隔週土曜日の勤務）と私の計五名での外来診療となりました。そのために、外来担当医として一日に一名ずつしか配置出来ず、また、隔週の土曜日で休診が出現となってしまい、患者様方には、大変、ご迷惑をお掛けすることになってしまいました。この紙面をお借りして、お詫び申し上げます。

また、ご存知の通り、厚生労働省の糖尿病実態調査のように、四年間で糖尿病が強く疑われる患者さんが約八十八万人、糖尿病の可能性が否定できない人が約百七十七万人と、全国的な患者さんの急激な増加の影響と、患者さん方の大病院志向もあり、当院の外来患者数は増加の一途となっております。それに対して、診療体制は、以前に比べて、脆弱化しており、外来診療の質および量の面においてより一層の低下を来し、すでに患者さん方には十分な医療を提供出来なくなっております。そのために、数年来、この紙面で書きましたが、厚生労働省が推進しております病診連携をより一層進め、外来での受け入れ可能患者数の確保に努める方針としております。すなわち、良好な血糖コントロールで病状の安定した患者さん方には、掛かり付け医の先生方に紹介させて頂いた上で治療を継続して頂き、また、血糖コントロールが不良で病状が不安定な患者さん方には、掛かり付け医の先生方より当院へご紹介頂き、当院にて入院管理を主にした管理をさせて頂いた上で、血糖コントロールの改善と病状の安定をみたところで、再び、掛かり付け医の先生方に戻して管理して頂く方針としております。また、開業医の先生方ともそのようなネットワークを構築させて頂きたいと考えております。

今後とも、引き続き、開業医の先生方には、色々ご協力をお願いすることもあるかとは思いますが、その際は、ご理解とご協力の程を頂きますように、この紙面をお借りしてお願いする次第です。よろしく願い申し上げます。

次に、入院につきましては、昨年度と同様にクリティカル・パスに準じた状態で、10日間～2週間前後の入院で、糖尿病教育および合併症精査（糖尿病性合併症と動脈硬化性疾患の評価、および、悪性腫瘍のチェック）を行う体制が維持出来ました。今後、パラメディカルも参加した糖尿病教育という面をより一層盛り込んで、クリティカル・パスの完成を目指していきたいと思っております。

今後の課題ですが、前述しましたように、爆発的な患者数の増加に対して、いかにして外来運営をしていくかが緊急の検討課題だと思います。鹿児島大学の協力を頂きながら、担当医師の確保、および、他の医療機関との連携により病診連携を一層進めてまいりたいと思います。

糖尿病の診療は、看護師・栄養士・検査技師・薬剤師など、コメディカルの方々の協力を得て、成立しております。今後とも、より一層の協力を得て、診療を充実していければと考えております。そして、糖尿病に関する医療機関間のネットワークを形成して、鹿児島の糖尿病医療の充実を目指したいと考えております。

消化器内科

消化器内科部長 古賀 哲也

【内視鏡検査】

部内視鏡検査	2064 件
下部内視鏡検査	952 件
ERCP	58 件
IDUS	6 件
大腸超音波内視鏡検査(CUS)	7 件
超音波内視鏡検査(EUS)	56 件

腹部超音波検査	1473 件
---------	--------

【IVR (肝胆膵)】

PTCD	6 件
Metaric Stent 留置	2 件
経皮経肝胆道ドレナージ(PTGBD)	4 件
経皮経肝胆嚢穿刺吸引術(PTGBA)	4 件

注腸検査	65 件
食道胃透視	58 件

【内視鏡治療】

胃瘻造設術(PEG)	5 件
食道粘膜切除術	2 件
食道ステント留置術	4 件
異物除去術	33 件
内視鏡的止血術(止血率 100%)	91 件
食道拡張術	13 件
小腸拡張術	5 件
総胆管結石排石術	
EPBD	10 件
胆管ドレナージ術	
ENBD	14 件
ERBD	14 件
EMS	5 件
大腸ポリープ切除術	62 件
大腸ステント留置術	1 件
経肛門的インウスチューブ留置術	4 件
S 状結腸軸捻転整復術	3 件
内視鏡的イレウスチューブ留置術	22 件

循環器内科

循環器内科部長 大場 一郎

【特色】

当科は鹿児島大学大学院医師学総合研究所循環器・呼吸器・代謝内科学教室（鄭忠和教授）から循環器内科スタッフとして派遣された三名の常勤医で構成されています。循環器疾患の外来・入院診療、他科から依頼の術前および心疾患精査、救急患者の対応を経胸壁・経食道心エコー、頸動脈エコー、下肢血管エコーなど超音波検査、運動・薬物負荷検査、冠動脈造影 MDCT を駆使し生理検査室、放射線科と連携のもと多様に診療をこなしています。

【人事・スタッフ】

平成 20 年度の循環器内科の診療実績について御紹介申し上げます。本年度の人事異動は H20 年 1 月 1 日植屋奈美医師が派遣、H20 年 10 月 1 日に退職されたあとに溝口悦子医師が派遣されてこられました。生理検査技師の富吉裕児、森田修康と外来受付・看護部体制で検査・治療に対応しています。

【診療状況】

1) 外来診療

外来診察は部長が毎日の午前中と水曜の午後、他のスタッフが隔日で午前中の診察にあたります。外来患者数は一日あたり 30-40 名程度で、待ち時間の解消のための予約制ですが予約外の飛び込み受診、新患や急患、他院や他科からの紹介患者様を組み込まざるをえずなかなか予約通りにはいかないのが実情です。高血圧、高脂血症などの生活習慣病、狭心症などの虚血性心疾患、陳旧性心筋梗塞後や拡張型心筋症など心筋疾患による慢性心不全、心房細動などの不整脈および弁膜疾患、ASO や DVT など下肢血管疾患と大動脈解離への救急対応と循環器疾患全般の診療を行っています。当科の特徴としては術前心機能評価目的での他科依頼の多さです。冠動脈造影 MDCT 診断が放射線部のレベルアップによる解析の迅速化で従来より大量かつ詳細な画像診断が可能になりました。当院では心臓カテーテル検査およびカテーテル治療は行いませんので、鹿児島大学病院・鹿児島医療センター・鹿児島市立病院といった心臓カテーテル関連施設との緊密な連携によりスピーディな診断・加療を実現しています。また、上記の鹿児島市における循環器基幹病院と合同でカンファレンスや研究発表を行う機会も多く、先進医療の動向にも充分対応出来ます。

2) 入院診療

最も多い症例は高齢者の慢性心不全の増悪により救急搬送されるケースです。ICU 管理で循環・呼吸状態を改善させ内科病棟へ転棟し全身状態の改善をみて退院となります。ペースメーカー植え込み術はほぼ毎月一件のペースで行っています。整形外科など長期臥床化する症例が多いことから下肢静脈血栓症例は増加がみられ、放射線科と一次留置型や留置型の下大静脈フィルターによる肺塞栓予防を積極的に行っています。

【平成 21 年度に向けて】

現在の診療内容をさらに充実させながら、大学病院や鹿児島医療センターといった最新機器や情報の豊富な施設との人的・物的交流をいっそう深めていきます。総合病院である当院の特色から循環

器科に限らず幅広い疾患を経験する機会が多く、研修医の対応にも力を入れていく予定です。

【手術症例数】

ペースメーカー移植術 1) 新規：5件、2) 入れ替え：4件

【超音波検査件数】

- ・心エコー 1) 経胸壁：2945件、2) 経食道：11件
- ・頰動脈エコー 経胸壁心エコー時にルーティンに行っています。
- ・下肢血管エコー 1) 動脈：17件、2) 静脈：92件

【冠動脈MDCT】

約300件

呼吸器内科

呼吸器内科部長 岩川 純

平成 20 年 4 月から、当科は岩川以下久保田、野間、内田、上川路医師の 5 人体制となりました。呼吸器外科、放射線科、病理科とも協力しより良い呼吸器疾患の診療にあたってまいります。また、他科とも連携して患者さまに対して全人的に診療に当たるように努めてまいります。

【当科の主な診療内容】

肺炎、呼吸器感染症

日本呼吸器学会や感染症学会の市中肺炎ガイドライン、院内肺炎ガイドラインに準拠して診断、治療にあたっています。結核については当院には結核病床がないため、外来での診療が主となります。

肺炎球菌ワクチン接種も行っています。

肺癌

胸部レントゲン、CT などの画像診断、気管支鏡をおこない、肺がんの診断を行います。放射線科、外科、病理と連携して患者様ごとの最も適切な治療について検討し、治療について提案いたします。

内科領域では抗がん剤による治療が中心となります。痛みをとる緩和治療も行っています。

外来での抗がん剤治療も積極的に行っています。担当医にご相談ください。

気管支喘息

鹿児島県は 2003 年の統計で人口 10 万人あたりの喘息死全国平均 2.9 人に対して 6.6 人で全国最下位を記録しています。気管支喘息は、吸入ステロイドを中心とした治療でコントロール可能な患者さんが増えています。当科ではぜんそく死ゼロを目指して鹿児島気管支喘息研究会の協力病院（拠点病院）として活動しています。

間質性肺炎

治療、診断が困難な疾患でしたが徐々に病態が解明されつつあります。治療についても進歩しています

肺気腫、慢性呼吸不全

肺機能、画像所見からの確な診断を行い、状態にあった治療を選択するように努めています。呼吸リハビリテーションや薬物治療、禁煙指導を行います。状態によっては在宅酸素療法の導入や非侵襲的陽圧換気療法（鼻マスク式人工呼吸器）も使用しています。

当科では、学会、研究会に積極的に参加して最新の医療学び、院内、当科でのカンファレンスで患者さまごとの最良の医療を提供できるように努力しております。

【外来診療】

月曜日から金曜日は外来担当を決めて診療しております。土曜日については担当医師が州で変わり

ますのでご注意ください

平成 17 年度からの外来患者延べ数と新患患者数を表 1 に示します。平成 18 年度以降外来患者数では 6000 人前後で新患患者数も 1300 人前後です。

表 1)

	延べ患者数	新患患者数	紹介患者数
平成 17 年	5434	1202	341
平成 18 年	6527	1347	410
平成 19 年	6678	1302	

平成 18 年度の外来新規の病名がつきその後外来で経過を観察した患者さまの疾患では、気管支喘息が最多で 410 例、ついで肺炎が約 300 例でした。また肺がんは 68 例で、間質性肺炎が 30 例、肺気腫は 90 例でした（重複を含む）。

【入院診療】

入院診療としては平成 18 年から 3 階西病棟を主病棟として診療に当たることとしました。各病棟に患者さまが点在すると非効率のみでなく、看護師との連携も困難でよりきめ細やかな診療ができないと考えました。また、看護師をはじめスタッフの教育の点でも不利と判断したためです。軽症患者さまであれば他病棟に入院することはありますが呼吸不全を有する患者さまなどは 3 階西病棟に入院していただくようにしています。さらに人工呼吸器が必要となる急性疾患などは状態によっては ICU での治療するようにしています。入院患者数の内訳を表 2 に示します。

表 2)

	17 年度	18 年度	19 年度
肺癌	267	243	358
肺炎	110	110	121
間質性肺炎	22	21	18
喘息	13	28	24
肺気腫	7	5	11
肺結核	13	4	5
その他	161	154	144
合計	593	565	681

疾患ごとでは肺がんのために入院した延べ患者数が 358 例と最多となっています。平成 18 年 8 月から平成 19 年 7 月までの 1 年間、当科で新規に肺がんと診断された患者数は 116 例うち呼吸器外科で手術可能な患者様は 1/3 程度でした。手術ができないⅢb 期以上の患者が多いのが実情です。治療としては進行肺がんが高齢、全身状態が不良のため抗がん剤による化学療法ができなかった数例を除き、化学療法を施行しています。化学療法は複数回の治療となるため 1 人の患者さまが 2 - 6 回入院するため延べ患者数では最多となっています。肺がんについては患者さまには病名を基本的には告知し、標準的に肺がんが使われている化学療法を選択し、効果も説明して納得して治療を受けていただくようにしております。また入院だけでなく外来での化学療法を積極的にを行い、患者

さまの負担を軽減するように努めています。

他の疾患としては肺炎、気管支喘息、肺気腫についても学会などの推奨するガイドラインに基づき経験だけに頼らない、根拠のある治療を目指しています。

気管支鏡検査の数としては174例で大きな合併症はありませんでした。気管支鏡を行い肺がんの診断がついた116例中84例 72%が気管支鏡で組織または細胞診で診断が確定しています。重篤な合併症はありませんでした。今後も適応を考慮し、安全に的確な検査を施行していきます。

最後に、当科が円滑に診療を行えるのも病棟の岩元師長をはじめとした病棟スタッフ、外来スタッフや多くのコメディカルの方々のお陰です。また、大きな合併症もなく気管支鏡を施行できているのも、気管支鏡室専従の中川さん、内視鏡室の西山さんのご協力の結果です。紙面ではありますがお世話になっている方々に厚く御礼申し上げます。

【略歴】

岩川 純

1995年 鹿児島大学卒業 鹿児島大学医学第3内科入局 研修医
1996年 沖縄中部病院呼吸器内科レジデント
1997年 県立北薩病院 呼吸内科医師
1999年 長崎大学 第二内科 感染症グループに国内留学
2001年 ネブラスカ州立大学 留学
2003年 出水市立病院呼吸器内科医長
2005年 鹿児島大学病院 呼吸器内科医員
2006年 今給黎総合病院呼吸器内科 部長 現職

<所属学会>

日本内科学会、日本呼吸器学会、日本感染症学会、
日本化学療法学会、日本臨床腫瘍学会

<取得資格>

日本内科学会認定医、日本内科学会総合内科専門医
日本呼吸器学会 専門医、ICD 認定産業医

久保田 真悟

1998年 鹿児島大学医学部卒業 第3内科入局
2001年 今村分院
2003年 阿久根市民病院
2005年 鹿児島大学病院 呼吸器内科
2006年 今給黎総合病院呼吸器内科

<所属学会>

日本内科学会、日本呼吸器学会

<資格修得>

日本内科学会認定医

野間 聖

鹿児島大学 2000 年卒

2000 年～2004 年、聖路加国際病院・内科レジデント

2003 年、同チーフレジデント

2004 年～2006 年、公立陶生病院 呼吸器・アレルギー内科 専攻医

2006 年～2008 年、鹿児島大学病院呼吸器内科

2008 年～今給黎総合病院 呼吸器内科

<所属学会>

日本内科学会、日本呼吸器学会、日本アレルギー学会、日本呼吸器内視鏡学会

日本感染症学会、日本肺癌学会、日本臨床腫瘍学会

<取得資格>

日本内科学会認定医、日本内科学会総合内科専門医

日本呼吸器学会専門医、日本がん治療認定医機構がん治療認定医

内田 章文

2004 年、自治医科大学卒業

2005 年、鹿児島大学第 3 内科入局

<所属学会>

日本内科学会、日本呼吸器学会

上川路 和人

2005 年 大分大学医学部卒業

2005 年 鹿児島大学病院初期研修医

2007 年鹿児島大学病院後期研修医(呼吸器・ストレスケアセンター)

2008 年 南九州病院呼吸器内科非常勤

2008 年 今給黎総合病院・昭和会クリニック呼吸器内科

<所属学会>

日本内科学会、日本呼吸器学会、日本アレルギー学会、日本呼吸器内視鏡学会

<取得資格>

日本内科学会認定医

【論文】

父娘感染が示唆された RFP、SM 耐性肺結核の一例

鹿児島医報

岩川 純, 隈元朋宏, 本川郁代, 久保田真吾

【講演会】

PK/PD を考慮した市中肺炎の治療

谷山生協病院 鹿児島市 2007 年 9 月 26 日

岩川 純

【学会発表】

芳香剤誤嚥による呼吸不全を起こし救命し得なかった 1 例

第 59 回日本呼吸器学会九州地方会 別府市 2007 年 11 月 23 日

○隈元 朋洋 本川 郁代 久保田 真吾 岩川 純

鹿児島大学病院呼吸器ストレスケアセンター

松山 航 東元 一晃 有村 公良

リネゾリドが有効であった MRSA による中心静脈カテーテル関連敗血症の 1 例

第 279 回日本内科学会九州地方会 長崎市 2007 年 11 月 18 日

今給黎総合病院呼吸器科 ○隈元 朋洋 本川 郁代 久保田 真吾 岩川 純

鹿児島大学病院呼吸器ストレスケアセンター 松山 航 東元 一晃 有村 公良

【研究会発表】

吸気流入速測定による吸入ステロイド薬剤形の検討

第 6 回鹿児島喘息研究会

久保田 真吾 岩川 純

鹿児島大学病院 呼吸器内科 東元一晃

ゲフィチニブが著効した喫煙者肺線がんの 1 例

鹿児島肺がん研究会

岩川 純, 隈元朋宏, 本川郁代, 久保田真吾

神経内科

神経内科部長 丸山 芳一

平成 20 年 3 月 1 日をもって神経内科は長堂部長を加え、4 名体制となりました。非常勤医師は鹿児島大学から 7 名の専門医師の応援をいただいております。
神経内科は以下の理念を掲げて診療にあたっております。

神経内科の診療理念

神経内科診療理念

1. 診療の最終目標を「喪失した神経諸機能の回復」といたします。
2. 身体機能不全から生じるさまざまな合併症を予防するために細心の注意を払い、診療・看護にあたります。
3. 機能再生（リハビリテーション）が速やかに効果を上げるように受療環境の整備に心がけます。
4. 精神神経機能障害に伴う精神的・肉体的苦痛を軽減するための精神的サポートに重点をおきます。
5. これらの目標を達成するために日々の研鑽を心がけ、常に最善の医療を提供する努力を惜しみません。

診療体制は外来診療は月曜から土曜日までの毎日、主に午前中行っておりますが、急患は 24 時間必ず対応しております。病棟は別館 2 階南病棟 36 床を近藤ひとみ師長、折田美紀主任を中心に重症患者の治療、看護にわたり十分その職責を果たしております。

【スタッフ（平成 19 年度在籍）】

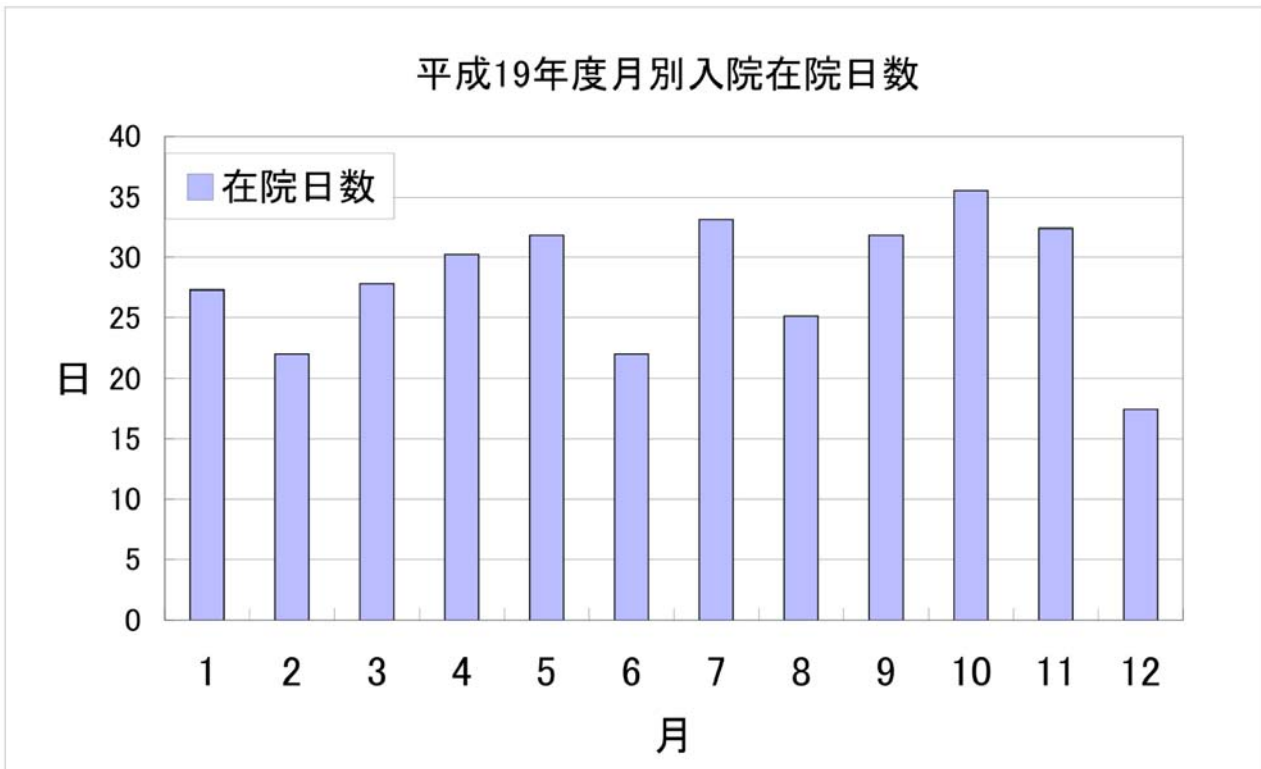
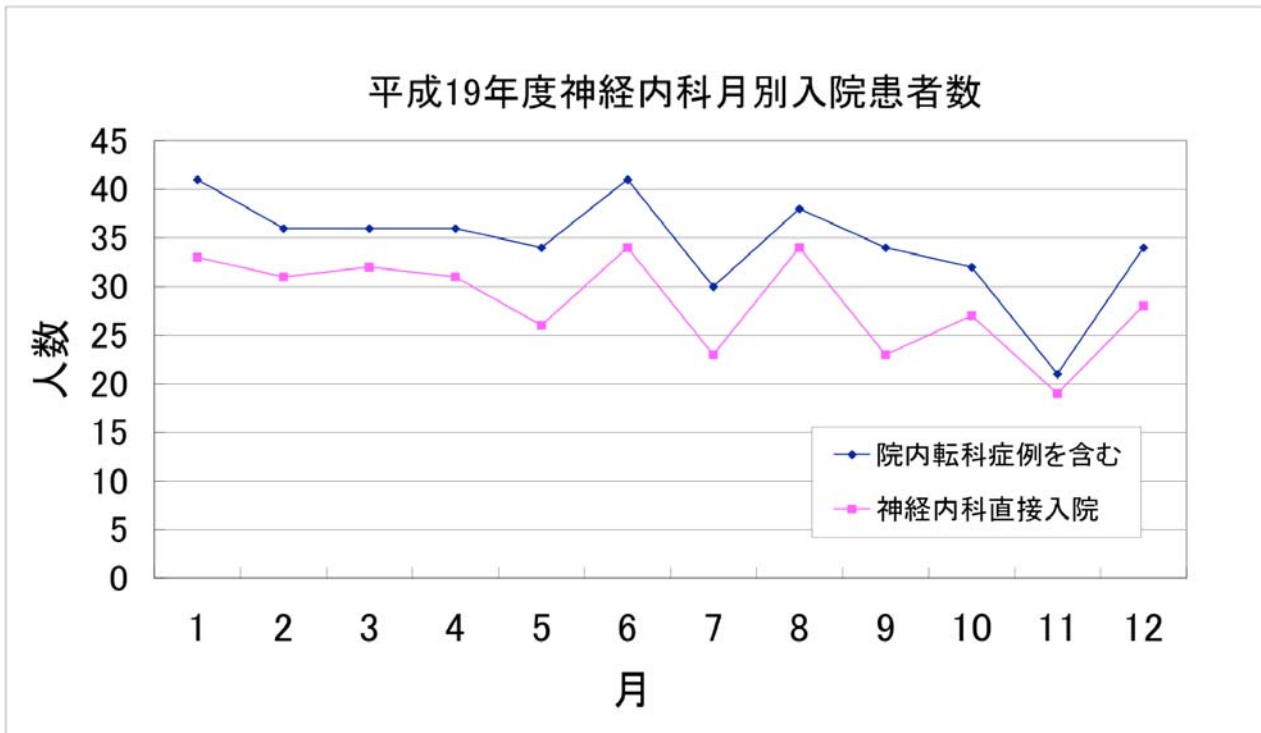
常勤

- 丸山芳一医師（神経内科部長、医学博士、日本内科学会認定医、神経内科専門医、日本神経学会評議員、鹿児島大学医学部臨床教授）
長堂竜維医師（平成 20 年 3 月～）（神経内科部長、医学博士、日本内科学会認定医、神経内科専門医、鹿児島大学医学部非常勤講師）
徳永章子医師（神経内科専門医、日本内科学会専門医）
田代雄一医師

非常勤医師

- 有村由美子医師（電気生理学）
丸山征郎医師（血管代謝学）
橋口照人医師（神経内科学、糖尿病）
脇田政之医師（頸部血管超音波検査）
崎山佑介（神経内科学）
稲森由恵（神経内科学）
川村美輪子（神経内科学）

【平成19年度入院状況】（月ごとの入院患者数と在院日数）



疾患別入院患者

疾患名	患者数
脳梗塞	127
一過性脳虚血発作	7
椎骨脳底動脈循環不全	1
脊髄梗塞	5
脳出血	12
頭部外傷	2
慢性硬膜下水腫	1
びまん性軸索障害	1
脊椎骨骨折	1

脳腫瘍	6
-----	---

HTLV1脊髄症	2
頸椎症	1
多発外傷	1
馬尾症候群	1
正常圧水頭症	1
低髄圧症候群	2

三叉神経麻痺	1
多発神経炎	4

慢性リウマチ	1
多発性筋炎	4
血管炎症候群	1
皮膚筋炎	2
Wagener肉芽腫	1
原田氏病	1
筋膜炎	1
リウマチ性多発筋痛症	4

パーキンソン病	16
多系統萎縮症	1
脊髄小脳変性症	2
シャイドラーガー症候群	1
レビー小体病	1
stiffman症候群	1
筋萎縮性側索硬化症/運動神経病	14
重症筋無力症	2
多発性硬化症	6

疾患名	患者数
髄膜炎・脊髄炎	19
脳膿瘍	1
咽頭口頭炎	2
下腿筋膿瘍	1
カンジダ食道炎	1
肺炎/急性気管支炎	19
胸膜炎	1
腎盂腎炎	3
皮膚膿瘍	1
敗血症	1

失神	4
めまい	14
うつ病	11
ヒステリー反応	2
てんかん/重責	12
離脱症候群	1
ミオクローヌス	1
周期性四肢麻痺	4
脊髄性ミオクローヌス	1
舞踏病	2
横紋筋融解	1

悪性リンパ腫	2
前立腺がん	1
肺がん	1
副腎不全	1
バセドー病	1
糖尿病	4
慢性アルコール中毒	2
肝性脳症	1
低血糖性昏睡	2
低ナトリウム血症	2
消化管出血	2

播種性血管内凝固症候群	1
-------------	---

血友病B	1
汎血球減少症	1

ギランバレー症候群	12
慢性炎症性脱髄性多発神経炎	6
クロイツフェルト・ヤコブ病	1

貧血	1
蕁麻疹	1
胃ろう増設	1
褥創	1

【死亡症例】

平成 19 年度死亡症例

	性別	年齢	死因	合併症など	入院日数	他施設からの紹介
1	男	93	肺炎	在宅訪問患者	29	
2	女	87	脳塞栓	中大脳動脈閉塞	117	紹介患者
3	女	78	消化管出血	パーキンソン病	31	紹介患者
4	女	59	敗血症	大腿骨骨折	3	紹介患者
5	女	67	脳塞栓	胆管がん	79	紹介患者
6	女	92	脳梗塞	内頸動脈閉塞	57	
7	男	76	肺炎	パーキンソン病	17	紹介患者
8	女	86	脳出血	混合型出血	3	紹介患者
9	女	84	脳梗塞	中大脳動脈閉塞	19	
1	男	83	脊髄膿瘍	肺がん転移	54	紹介患者
10	女	77	肺炎	脳梗塞後遺症	49	
11	女	62	脳塞栓	内頸動脈閉塞	7	
12	女	71	脳梗塞	内頸動脈閉塞	2	紹介患者
13	男	61	脳幹出血		2	
14	男	50	脳梗塞	Trussou 症候群、すい癌、DIC	7	
15	男	77	脳塞栓	内頸動脈閉塞	14	紹介患者
16	男	80	消化管出血	脳梗塞後遺症	1	紹介患者
17	女	74	脳梗塞	穿通枝梗塞、敗血症	16	
18	男	83	脳塞栓	内頸動脈閉塞	9	紹介患者

【研究・教育】

「脳血管疾患の再発に対する高脂血症薬HMGCoA 阻害薬の予防効果に関する研究」

丸山芳一（研究協力）

主任研究者 広島大学大学院脳神経内科 松本昌泰

【講演】

急性期脳梗塞の治療 治療の現状とトピックス

垂水医療セミナー 平成 19 年 10 月 18 日垂水医師会病院

丸山芳一

【講義】

丸山芳一 鹿児島大学医学部概説講義 血液凝固 I、II 平成 19 年 1 月 16、22 日

外科

外科部長 牟禮 洋

【人事異動】

平成 19 年 4 月から 6 月までは塗木健介先生と平田宗嗣先生、
平成 19 年 7 月から平成 20 年 3 月までは福島浩平先生と野間秀歳先生に頑張ってもらいました。

他は異動なしで

【スタッフ】

医師 : 今給黎和典先生、牟礼洋、島田麻里緒先生、が異動なしで頑張っております。

看護師 : 松田めぐみ看護師を中心に他、加治屋加代子看護師、日高里美看護師、藺牟田里美看護師などに頑張ってもらっています。

医療秘書 : 中村容子さんにこの 7 年間頑張ってもらっています。

【外来活動状況】

手術患者の外来 follow

紹介患者の受け入れ

外来化学療法 (抗がん剤治療)

乳がん検診

肛門疾患

急性腹症 (急性虫垂炎など腹痛を主訴とする病気)

など診察しております。

外来患者はここ数年増加傾向のようです。

【入院件数】

年間 577 名の入院

【手術症例】

手術室を利用しての手術は年間 276 例でした。

内訳としては

食道がん :	手術 : 7 例	EMR : 2 例
胃癌 :	18 例	
幽門側胃切除 :	11 例	
全摘 :	5 例	
その他 :	2 例	
大腸・直腸癌 :	47 例	
結腸切除 :	29 例	(腹腔鏡 : 3 例)
低位前方切除 :	5 例	
Miles :	7 例	
その他 :	6 例	
肝がん :	3 例	

右葉切除、左葉切除、部分切除、各 1 例
乳がん： 5 例
胆石： 19 例
胆摘： 18 例（腹腔鏡手術：14 例）
総胆管結石： 1 例
鼠径部ヘルニア： 72 例
鼠径ヘルニア： 65 例
大腿ヘルニア： 5 例
急性虫垂炎： 36 例（腹腔鏡手術：31 例）

などが主な手術症例です。

【学会活動】

局所進行切除不能膵癌症例に対する腹腔鏡下膵腫瘍生検法の適応

第 20 回日本内視鏡外科学会総会 仙台 平成 19 年 11 月 19 日～21 日

野間秀歳、新地洋之、前村公成、又木雄弘、迫田雅彦、久保文武、上野真一、北菌正樹、高尾尊身、愛甲孝

膵頭十二指腸切除術後におけるドレーン管理の変遷-開放式、閉鎖式、J-VAC、準閉鎖式ドレーン法の比較-

第 20 回肝胆膵外科学会 山形 平成 20 年 5 月 29 日

野間秀歳、新地洋之、前村公成、又木雄弘、蔵原弘、前田真一、迫田雅彦、久保文武、上野真一、夏越祥次、高尾尊身

切除不能膵胆道癌に対する抗癌剤感受性試験（HDRA 法）に基づいた化学療法

第 108 回日本外科学会定期学術集会 長崎 平成 20 年 5 月 15 日～17 日

野間秀歳、新地洋之、前村公成、又木雄弘、蔵原弘、前田真一、夏越祥次、高尾尊身、愛甲孝

呼吸器外科

呼吸器外科部長 米田 敏

日本外科学会認定医・専門医・指導医

日本呼吸器外科学会専門医・指導医

日本呼吸器外科専門医認定機構専門医

日本胸部外科学会認定医・正会員

日本肺癌学会評議員

日本呼吸器外科学会評議員

九州外科学会評議員

日本胸部外科学会九州地方会評議員

日本肺癌学会九州支部会評議員

鹿児島肺癌化学療法研究会世話人

鹿児島肺癌研究会世話人

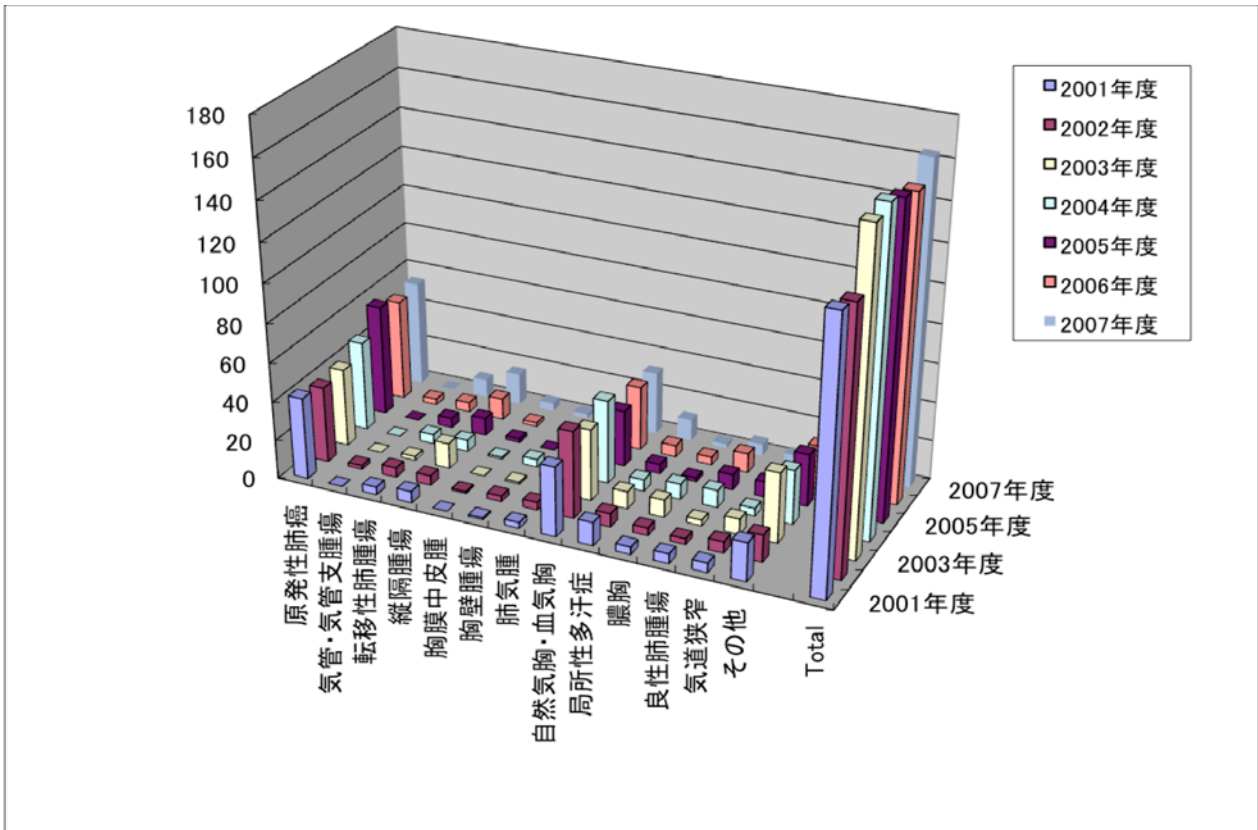
鹿児島呼吸器外科懇話会世話人

七隈癌治療フォーラム世話人

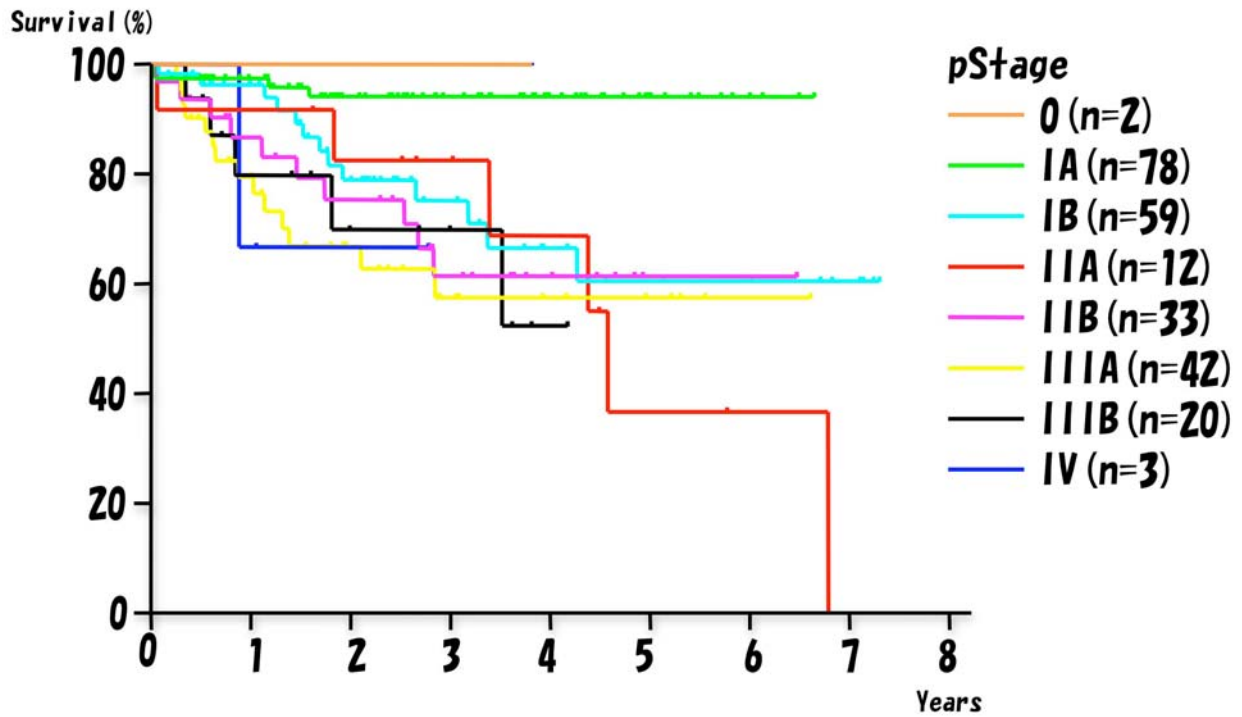
2007年度は、濱中和嘉子先生の異動により光武孝倫先生が赴任。加藤文章先生は留任。3人体制で外来、検査、手術に従事している。

2007年度手術件数は164例で、肺癌54例、転移性肺腫瘍9例、縦隔腫瘍16例、胸膜中皮腫4例、胸壁腫瘍2例、肺気腫3例、自然気胸・血気胸32例、局所性多汗症11例、膿胸2例、良性肺腫瘍6例、気道狭窄4例、その他21例であった。年次推移を以下に示す。

	2001年度	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度
原発性肺癌	42	39	40	46	57	52	54
気管・気管支腫瘍	0	2	0	0	0	3	0
転移性肺腫瘍	4	5	2	5	5	5	9
縦隔腫瘍	6	5	13	6	9	11	16
胸膜中皮腫	0	1	0	1	2	2	4
胸壁腫瘍	1	3	1	4	0	0	2
肺気腫	3	4	4	4	7	4	3
自然気胸・血気胸	36	45	37	43	29	33	32
局所性多汗症	12	7	9	6	5	6	11
膿胸	4	4	9	8	2	4	2
良性肺腫瘍	5	3	3	9	8	10	6
気道狭窄	5	6	8	4	8	3	4
その他	20	14	36	28	27	22	21
Total	138	134	162	164	159	155	164



2001年4月より2008年8月根治術を施行された非小細胞肺癌249例の生存曲線



【今年度学会発表】

1	80歳以上超高齢者肺癌の検討	第44回九州外科学会、口演	福岡，3月22-23日，2007年	光武孝倫、米田 敏、加藤文章、岩崎昭憲、白日高歩
2	胸壁再建に対する e-PTFE シートとポリプロピレンメッシュ合成シート (Composix mesh) の使用経験	第107回日本外科学会定期学術集会、口演	大阪，4月11-13日，2007年	米田 敏、水流弘文、加藤文章、岩崎昭憲、白日高歩
3	左乳癌放射線治療後膿胸の開窓術後に腹直筋皮弁にて閉窓を行った1例	第24回日本呼吸器外科学会総会、ビデオ	横浜，5月17-19日，2007年	米田 敏、水流弘文、加藤文章、岩崎昭憲、白日高歩
4	臨床病期 IIIA 期以上非小細胞肺癌に対する Induction therapy 症例の検討	第10回七隈癌治療フォーラム	福岡，10月6日，2007年	加藤文章、光武孝倫、米田 敏、岩崎昭憲、白日高歩
5	胸腺腫が疑われた結節硬化型ホジキンリンパ腫 (Syncytial variant) 再発の1例	第69回日本臨床外科学会総会、ポスター	横浜、11月29-12月1日、2007年	光武孝倫、米田 敏、加藤文章、白石武史、岩崎昭憲、白日高歩

【論文】

1	A case of mixed connective tissue disease complicated with thymic carcinoma and Hashimoto's thyroiditis	Modern Rheumatology	2007, 17;63-66	Yoshidome Y, Hayashi S, Maruyama Y, Yoneda S, Matsuzoe D, Kawakami T, Shirahama H, Tashiro Y, Eiraku N
2	A Rare Metastatic Case of Alpha-fetoprotein (AFP) - Producing Adrenocortical Carcinoma: Long Survival with Various Therapeutic Strategy Including of Lung Resection	Surg Today	2008;38:275-8	Hamanaka W, Yoneda S, Shirakusa T, Shirahama H, Tashiro Y, Iwasaki A, Shiraishi T, Tsuru H

整形外科

整形外科部長 松永 俊二

今給黎総合病院整形外科手術件数（平成19年4月～平成20年3月）

年間総手術件数 878件

<u>骨折および脱臼（外傷性）（354）</u>		<u>骨切り術</u>	
上肢		骨盤	7
鎖骨骨折	14	大腿骨	3
上腕骨骨折	30	脛骨	4
上腕骨顆上骨折	3	関節固定術	3
前腕骨骨折	51	関節授動術	5
手指骨折	18	<u>靱帯その他（37）</u>	
肩関節亜脱臼	3	肩腱板手術	2
肩鎖骨脱臼	2	膝靱帯手術	7
下肢		半月板手術	22
骨盤骨折	1	関節鏡検査	6
大腿骨頸部骨折	110	<u>感染症手術（32）</u>	
大腿骨顆部骨折	2	骨髄炎	10
膝蓋骨骨折	8	化膿性脊椎炎・腸腰筋膿瘍	10
脛骨骨幹部骨折	26	化膿性関節炎	3
足関節部脱臼骨折	16	手部感染症	9
踵骨骨折	4	<u>脊椎外科（93）</u>	
その他	5	頸椎椎弓形成術	10
開放骨折	15	頸椎前方固定術	6
脊椎		頸椎後方固定術	11
頸椎脱臼骨折	19	環軸椎固定術	1
胸腰椎脱臼骨折	18	腰椎後方固定術	25
<u>軟部組織に対する手術（52）</u>		骨形成的椎弓形成術	10
開放創の洗浄術	19	拡大開窓術	7
ばね指手術	6	腰椎椎間板ヘルニア摘出術	10
アキレス腱縫合術	9	椎弓切除術	7
手屈筋腱手術	13	椎体形成術	1
その他	5	脊椎短縮術	2
<u>切断（6）</u>		脊髄腫瘍手術	2
大腿部	4	仙腸関節脱臼整復術	1
下腿部	2	<u>先天性疾患（2）</u>	
<u>腫瘍手術（8）</u>		良性軟部腫瘍手術	6
良性骨腫瘍手術	1	多指症手術	1
<u>足の外科（5）</u>		内反足	1
外反母趾	3	仙骨悪性骨腫瘍手術	1

足関節靭帯手術	2	<u>その他 (139)</u>	
<u>神経・血管手術 (20)</u>		抜釘術	108
神経剥離術	15	観血的脱臼整復術	11
神経縫合術	5	滑膜切除術	9
<u>関節外科 (136)</u>		Osgood-Schlatter 手術	1
人工股関節置換術	45	神経血管縫合術	9
人工骨頭置換術	45	筋解離術	1
人工膝関節置換術	24		

【講演、学会活動】(H19 年度)

学会発表

軽微な外傷を機転とした R A 上位頸髄損傷の 3 例

第 33 回九州リウマチ学会 大分 平成 19 年 3 月 10 日

田邊 史、砂原伸彦、恒吉康弘、吉玉珠美、大坪秀雄、井尻幸成、松永俊二、武富栄二、小宮節郎、松田剛正

頸椎頸椎後縦靭帯骨化を認めた二卵性双生児姉妹病因検索的観点からみた双生児解析の意義

第 36 回日本脊椎脊髄病学会 金沢 平成 19 年 4 月 26 日

松永俊二、古賀公明、川畑直也、湯浅伸也、今給黎尚典、長野芳幸、井尻幸成、小宮節郎

腰部脊柱管狭窄症に対する拡大開窓術に関する多施設前向き患者立脚型調査

第 36 回日本脊椎脊髄病学会 金沢 平成 19 年 4 月 26 日

湯浅伸也、松永俊二、古賀公明、川畑直也、今給黎尚典、山元拓哉、井尻幸成、米 和徳、川内義久、鮫島浩司、小宮節郎

頸椎後縦靭帯骨化を呈した二卵性双生児姉妹

第 51 回日本リウマチ学会 横浜 平成 19 年 4 月 26 日

松永俊二、砂原伸彦、小宮節郎

The potential risk factor of the upper cervical spine in children with Down syndrome

第 80 回日本整形外科学会総会 神戸 平成 19 年 5 月 24 日

S. Matsunaga , H. Koga , N. Kawabata , S. Yuasa , T. Onimaru , T. Imakiire , Y. Nagano , K. Yone , S. Komiya

Dizygotic twin with ossification of the posterior longitudinal ligament(OPLL) associated with schizophrenia: a factor possibly related to the pathomechanism of OPLL

23rd Annual Meeting of the Cervical Spine Research Society, European Section Lueven, Belgium 2007/05/30

S.Matsunaga, H. Koga, T.Imakiire, S.Komiya

健康高齢者の心理的特徴について

第44回日本リハビリテーション医学会 横浜 平成19年6月6日

松永俊二、小宮節郎

RA 頚椎垂直性脱臼の画像診断基準-単純レ線とCT冠状断再構築像の検討

厚生労働科学研究費補助金「免疫アレルギー疾患予防・治療研究事業」リウマチ頚椎病変の治療に関するエビデンス形成のための体制確立と技術開発研究班 平成19年度第1回班会議 東京 平成19年10月6日

井尻幸成、武富栄二、松永俊二

頚椎後縦靭帯骨化症における神経症状発現に関する大規模横断調査-画像所見を中心として-

難治性疾患克服研究事業 脊柱靭帯骨化症に関する調査研究 平成19年度 第2回班会議 東京 平成19年10月20日

松永俊二、小宮節郎

A multicenter cohort study of radiographic predictors for development of myelopathy in patients with ossification of the posterior longitudinal ligament.

35th Annual meeting of Cervical Spine Reserch Society San Francisco, USA 2007/11/30

S. Matsunaga, K. Nakamura, T. Imakiire, K.I jiri, K. Yone, S.Komiya

統合失調症における頚椎後縦靭帯骨化症の頻度

第114回西日本整形災害外科学会 鹿児島 平成19年12月8日

松永俊二、古賀公明、川畑直也、河村一郎、入来順一郎、今給黎尚典、井尻幸成、米 和徳、小宮節郎

論文

胸郭出口症候群 山口 徹、北原光夫、福井次矢 編

今日の治療指針 2007年版 私はこう治療している 医学書院 746 2007

松永俊二

3章 診察と診断：触診 戸山芳昭編

最新整形外科学大系 11巻 頚椎・胸椎 49-52 2007

松永俊二

3章 診察と診断：神経学的診察、戸山芳昭編

最新整形外科学大系 11巻 頚椎・胸椎 53-63 2007

松永俊二

Adjacent intervertebral disc lesions following anterior cervical decompression and fusion: A minimum 10-year follow-up. Kai-Uwe Lewandrowski, MJ Yaszanski, I H, Kalfas, P Park, RF McLain, DJ Trantolo eds.

Spinal reconstruction, Clinical examples of applied basic science, biomechanics, and

engineering Informa Healthcare USA 149-153 2007

S.Matsunaga, Y.Nagatomo, T.Yamamoto, K.Hayashi, K.Yone, S.Komiya

超健康高齢者の心理的特徴について

整形外科と災害外科 56:73-75 2007

松永俊二、長友淑美、宮口文宏、川畑了大、救仁郷 修、山元拓哉、井尻幸成、林 協司、山元拓哉、米 和徳、石堂康弘、小宮節郎

胸椎椎体骨折を合併した強直性脊椎増殖症の治療経験

整形外科と災害外科 56:45-48 2007

河村一郎、武富栄二、砂原伸彦、片平光昭、井尻幸成、松永俊二、米 和徳、石堂康弘、小宮節郎

Steroid induced osteoporosis in RA patients

Modern Rheumatology 16: 195 2007

N. Sunahara , T. Yshitama , H. Otsubo , S. Matsunaga , E.Taketomi , S. Komiya , T. Matusda

A case report of dizygotic twins with ossification of the posterior longitudinal ligament of the cervical spine.

Modern Rheumatology 17: S209 2007

S. Matsunaga , N. Sunahara , S. Komiya

高齢関節リウマチ患者の頸椎病変に対する外科的治療

脊椎脊髄ジャーナル 20: 629-633 2007

松永俊二、小宮節郎

RA 頸椎病変の生命予後と機能予後

整形・災害外科 50: 737-741 2007

松永俊二、今給黎尚典、古賀公明、小宮節郎、井尻幸成

リウマチ頸椎病変に対する手術治療の患者立脚型調査に関する研究

厚生労働科学研究費補助金免疫アレルギー疾患予防・治療研究事業-リウマチ頸椎病変の治療に関するエビデンス形成のための体制確率と技術開発 平成18年度総括・分担研究報告書 205-207 2007

松永俊二

頸椎後方手術における成績評価の進歩

西日本脊椎研究会誌 33:87-89 2007

松永俊二、長友淑美、山元拓哉、川畑了大、宮口文宏、救仁郷 修、井尻幸成、米 和徳、小宮節郎、米延策雄

関節リウマチ患者の上位頸椎病変に対する後頭頸椎固定術の検討

西日本脊椎研究会誌 33:116-120 2007

嶋田博文、武富栄二、中村俊介、砂原伸彦、石堂康弘、井尻幸成、松永俊二、小宮節郎

腰部脊柱管狭窄症の手術成績に関する患者立脚調査一医師評価との乖離とその原因

西日本脊椎研究会誌 33:147-148 2007

川畑直也、湯浅伸也、古賀公明、松永俊二、今給黎尚典、長野芳幸、長友淑美、山元拓哉、宮口文宏、井尻幸成、米 和徳、小宮節郎

頸椎後縦靱帯骨化を呈した二卵性双生児姉妹

整形外科と災害外科 56:375-376 2007

松永俊二、古賀公明、川畑直也、湯浅伸也、今給黎尚典、長野芳幸、山元拓哉、長友淑美、宮口文宏、井尻幸成、米 和徳、小宮節郎

骨粗鬆症性脊椎椎体骨折後偽関節に対する手術適応と工夫

別冊整形外科 22: 80-83 2007

古賀公明、松永俊二

Occult spinal canal stenosis due to C-1 hypoplasia in children with Down syndrome.

J Neurosurg (Pediatr) 107:457-459,2007

Matsunaga S, Imakiire T, Koga H, Ishidou Y, Taketomi E, Higo M, Tanaka H, Komiya S

Hypoplasia of C-1 in children with Down syndrome.

J Neurosurg (Pediatr) 107:455-456,2007

Menezes AH, Matsunaga S.

当科における温熱併用化学療法 of 短期成績

日本生体電気刺激研究会雑誌 21 : 67,2007

神藺純一、横内雅博、山下芳隆、有島善也、廣津匡隆、小宮節郎、松永俊二

形成外科

形成外科部長 大塚 康二郎

【人事】

平成18年7月から大谷先生は、外傷を含めた形成外科の診療に従事して頂き、平成19年7月に横浜労災病院に転勤になりました。平成18年10月から森田先生は、褥創廻診のリーダーとして創傷治療に貢献して頂いた後、榛原総合病院に転勤となりました。千葉大学より赴任された村田先生は1年間、臨床、学会活動など精力的にこなされました。

代わりに7月より佐賀大学病院より私、大塚が赴任致しました。そして10月より岡本先生が横浜港北病院より赴任致しました。

それぞれの先生が、鹿児島の形成外科の認知度、技術を認識して頂くために努力した1年でした。何より有川公三先生は、6年間、今給黎総合病院形成外科部長としてご尽力して頂きましたが、今年度（平成20年3月）を持って退職され東京の神楽坂にて有川スキンクリニックを開業されました。私を始め、数々の若手の先生に形成外科の技術を伝達されていきました。

平成20年4月より不肖 私大塚が形成外科部長として就任させて頂きました。

【近況】

平成19年度は特に大きな変化はなくすぎた感がありますが、患者様の来院数、手術件数は昨年を上回りました。地域の医療関係者、また患者様の形成外科への認識、理解が高まったためと考えます。また平成19年度より始まった鹿児島創傷セミナーの世話人の施設に選んで頂きました。そして出席者数が非常に多く、地域の創傷に関する関心も高まっていることが、創傷を扱う形成外科としてはうれしく感じました。

今後も皮膚悪性腫瘍、四肢外傷、顔面外傷中心に尽力していく所存です。

平成19年度 手術件数 754件

【学会発表】

僧帽筋被弁を利用した側頭部債券の経験

南九州外傷・形成外科フォーラム 2007年

村田八千穂、有川公三、大塚康二郎、岡本典子

過大重瞼の1例

南九州外傷・形成外科フォーラム 2007年

岡本典子、有川公三、大塚康二郎、村田八千穂

僧帽筋被弁を利用した側頭部債券の経験

昭和大学形成外科九州同門会 2007年

村田八千穂、有川公三、大塚康二郎、岡本典子

過大重瞼の1例

昭和大学形成外科九州同門会 2007年
岡本典子、有川公三、大塚康二郎、村田八千穂

【論文】

今給黎総合病院で経験した皮膚悪性腫瘍の臨床的統計
大塚康二郎、有川公三、村田八千穂、岡本典子、保阪善昭

【講義】

鹿児島医療技術専門学校
有川公三、大塚康二郎

脳神経外科

脳神経外科部長 西澤 輝彦

【診療実績】

入院患者数：90名

手術件数：57件

開頭術	腫瘍	全摘出術/亜全摘	2
	動脈瘤	クリッピング	1
	動静脈奇形/血管腫	全摘出術	0
	血管吻合術		1
	開頭血腫除去術	脳内血腫	0
		硬膜外血腫	1
		硬膜下血腫	0
		その他	2
穿頭術	硬膜下血（水）腫洗浄術		10
	定位的血腫吸引術		4
	脳室ドレナージ		1
短絡術	V-P シヤント		3
	その他		2
頸動脈内膜剥離術			0
血管内手術	動脈瘤		3
	血管形成術(PTA)		3
	血管形成術(STENT)		21
	その他		2
その他			1
合計			57

【学会活動】

【全国学会】

頸部頸動脈狭窄症におけるステント留置術

-連続 102 病変における短期治療成績とフォローアップの結果-

第 66 回日本脳神経外科学会総会 東京 平成 19 年 10 月 3～5 日

シンポジウム：長期成績からの頸部頸動脈狭窄症の治療スタンダード

永山哲也、西牟田洋介、菅田真生、森正如、西澤輝彦、新納正毅、有田和徳

頸部頸動脈狭窄症におけるステント留置術

-PercuSurge 使用下における Closed cell design stent を用いた 95 病変における治療成績-

第 23 回日本脳神経血管内治療学会総会 兵庫 平成 19 年 11 月 16 日

永山哲也、西牟田洋介、菅田真生、森正如、西澤輝彦、新納正毅、有田和徳

【地方会】

クモ膜下出血で発症した中大脳動脈水平部(MCA-M1)動脈瘤の一例

第96回日本脳神経外科学会九州地方会 沖縄 平成19年6月23日

今元那津美、坂元健一、平原一穂、友杉哲三、大吉達樹、山田正彦、石井毅、今村春一、上津原甲一、西澤輝彦

【県内学会】

頭皮熱傷癒痕化皮膚癌の頭蓋内浸潤が疑われた1例

第17回鹿児島脳神経外科フォーラム 鹿児島市 平成19年2月16日

西澤輝彦、有川公三

【特別講演】

血管内治療の最前線、頸部頸動脈狭窄症に対するCASの現状と将来

日経メディカル エリア座談会 鹿児島市 平成19年9月7日

司会：有田和徳

参加者：西澤輝彦、永山哲也、兵頭明夫（コメンテーター）

【座長】

第51回鹿児島脳神経外科学会 一般演題の部

鹿児島市 平成19年2月10日

座長 西澤輝彦

学術講演会 Carotid Artery Stent の現在と未来 一般演題の部

鹿児島市 平成19年9月7日

座長 西澤輝彦

産婦人科

産婦人科部長 寺原 賢人

【年度別統計】

		16年度	17年度	18年度	19年度
新患総数		1044	943	972	944
入院数	婦人科	243	191	197	196
	産科	199	209	186	258
	新生児科	150	127	170	168
	計	592	527	553	622
手術件数	婦人科	127	136	108	153
	産科	43	31	66	69
	計	170	167	174	222
分娩数		117	111	156	182
	(帝王切開)	(22)	(21)	(59)	(67)

【平成19年度悪性疾患内訳】

	手術	化療	手+放	手+化	放+化	放射線	計
子宮頸癌	20	1	2	0	1	4	28
子宮体癌	4	1	2	0	0	0	7
卵巣癌	9	11	1	9	0	0	30
計	33	13	5	9	1	4	65

【年度別手術内訳】

	術式	16年度	17年度	18年度	19年度
子宮筋腫	単純子宮全摘出術	31	32	19	18
	筋腫核出術	8	8	15	9
子宮腺筋症	単純子宮全摘出術	6	5	4	9
子宮脱	根治術	20	20	10	15
子宮頸部癌	円錐切除	12	12	10	24
	単純子宮全摘術	1	0	0	2
子宮体部癌	拡大子宮全摘出術	1	1	0	1
	広汎子宮全摘出術	1	0	2	1
	単純子宮全摘出術	1	0	3	1
	拡大子宮全摘出術	0	1	1	2
卵巣嚢腫	広汎子宮全摘出術	1	0	0	1
	附属器切除術				15
卵巣癌	嚢腫摘出術	20	18	30	10
	根治手術	7	6	3	7
不妊症他	化学療法後再開腹	1	2	0	0
	内視鏡下手術	18	19	6	13
産科	帝王切開術	22	21	59	67
	子宮外妊娠手術	10	10	6	9
その他	経管縫縮術	0	0	1	1
		11	7	5	17
計		171	162	174	222

【平成19年度業績】

学会発表

鹿児島県の周産期医療と今給黎総合病院

第51回九州新生児研究会 霧島市 平成19年11月

土井宏太郎、丸山有子、谷口 肇、加藤明彦、寺原賢人

鹿児島県の周産期医療と今給黎総合病院

第116回日本産婦人科学会 鹿児島地方部会 鹿児島市 平成20年2月

土井宏太郎、丸山有子、谷口 肇、加藤明彦、寺原賢人

シンポジウム

Workshop III：胎盤の画像診断

“Antenatal prediction of placenta accreta in cases of placenta previa”

The 8th Annual Symposium Japanese Society for the Advancement of Womens' Imaging

淡路島 平成19年9月

宮崎大学周産母子センター 産婦人科、現 今給黎総合病院 土井宏太郎

論文

前置胎盤症例における癒着胎盤の画像評価

日本産婦人科・新生児血液学会誌 2007 16号:40-44 (2007.7月号)

土井宏太郎 他

著書

産婦人科診療 Data Book “前置胎盤・癒着胎盤”

産婦人科の実際 第56巻 第11号 2007.10.31発行 金原出版

土井宏太郎・池之上克

前置胎盤症例における癒着胎盤の画像評価

Radiology Frontier 2007 2007.11発行 メディカルビュー社

土井宏太郎・池之上克

新生児科

新生児科部長 丸山 有子

周産母子センター（NICU・GCU）

祝 10周年。

【人事】

現在、NICU・GCUは、産婦人科所属の医師と新生児内科所属の医師により日々の診療を行っています。平成13年より5年にわたり勤務された加藤明彦先生に代わり、平成19年4月より土井宏太郎先生が、5月には築山尚史先生に代わり谷口 肇先生が産婦人科に赴任されました。6月より新生児科（現在は新生児内科）が新設され、丸山有子が赴任いたしました。10月には再び加藤明彦先生が宮崎大学より戻って新生児科所属となり、谷口先生は、11月から藤元早鈴病院産婦人科へ異動となりました。現在は丸山、加藤、土井の3名で診療にあたっています。

また、スーパーローテートで大竹山令奈先生（6～7月）、永田智美先生（1～2月）が産婦人科一周産母子センターで研修されました。初期研修終了後、それぞれ、鹿児島大学小児科、産婦人科の後期研修医とされています。

NICU・GCUの看護師長として、6月に古川秀子師長が赴任されました。変動はありましたが、19年度末での病棟のスタッフは看護師24名、看護助手1名となっています。

【診療の状況と実績】

1) 病棟（NICU・GCU）

平成9年に開設された周産母子センターもちょうど10年目となり、患者数のみならずさまざまな診療器材も増加し、NICU・GCU業務も従来の面積では手狭となってきたため、10～12月に増改築工事を行いました。このことについては、別頁の「院内活動報告」に記載しています。工事中は入院数の制限を行いました。それでも1年間の入院総数は、ほぼ昨年度と同程度の168名に達することができました。入院総数、出生体重、入院経路、人工呼吸管理例数について、過去10年間の推移を別表に示しました。入院児総数も出生体重の分布にも大きな変化はありませんが、市立病院よりの新生児搬送児数が減少し、母体搬送後の院内出生児数が増加する傾向がみられています。このため、低出生体重児の急性期管理の頻度が高まり、人工呼吸器管理を要した症例数が飛躍的に増加する結果となりました。

2) 外来

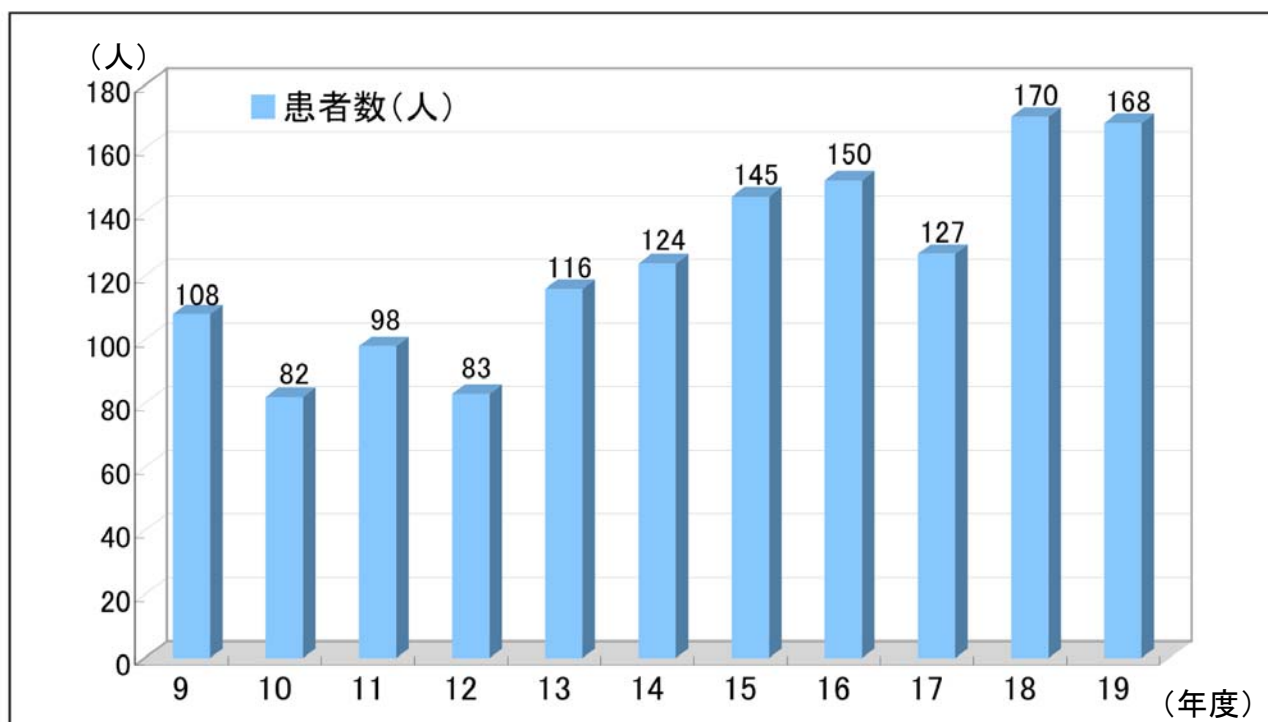
（新生児フォローアップ外来）

出生体重が1500g未満の児は、新生児科外来等で小学生になるまでフォローアップを継続することが勧められています。昨年度までは、NICU退院時に市立病院のフォローアップ外来へ紹介していましたが、平成19年6月から、当院でも新生児フォローアップ外来を開設しました。1時間4人の完全予約制で週1回午後のみで対応しています。当面は、産婦人科外来をお借りして運営します。

（シナジス外来）

早産児は、RSウイルス感染対策として、秋～冬の間、シナジス注射を毎月施行することが勧められています。平成19年度は10月から3月まで、週1回のシナジス外来を開設しました。

【入院総数】



【出生体重別患者数内訳】

年度(平成)	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
～999g	6	8	12	3	3	5	7	7	3	0	1
1000g～1499g	23	21	16	16	15	16	25	36	27	18	32
1500g～1999g	31	25	26	21	35	48	53	58	46	67	61
2000g～2499g	18	9	28	21	36	23	33	25	34	55	31
2500g～	30	19	16	22	27	32	27	24	17	30	43

【入院経路別患者数および院内出生率】

年度(平成)	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
当院外来管理後の院内出生	31	24	13	10	25	17	24	14	15	24	26
他院より母体搬送後の院内出生	4	3	3	17	27	20	17	15	17	33	51
市立病院より新生児搬送	67	51	69	35	48	70	94	112	89	100	75
他院より新生児搬送	6	4	13	21	16	17	10	9	6	13	16
院内出生率(%)	32.4	32.9	16.3	32.5	44.8	29.8	28.3	19.3	25.2	33.5	45.8

【人工呼吸管理施行患者数】

年度(平成)	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
人工呼吸管理施行数	9	2	6	9	9	8	5	1	4	4	35

【その他の活動状況】

1) カンファレンス・レクチャー等

- 合同カンファレンス：平成20年1月より、医師と看護師との合同のカンファレンスを週1回開いています。各患児の治療方針の確認や家族ケア、退院時の地域への働きかけなどを話し合う場となっています。

- 月曜レクチャー：毎週月曜日には、日常の臨床の中から一つテーマを選び、ショートレクチャーをおこなっています。モットーは、“何があろうが継続”。集まりが悪くても、マンツーマンでもやります。第3月曜日は土井先生による産科編となっています。
- 茨 聡先生の Monthly Lecture：鹿児島市立病院総合周産期母子医療センター新生児科部長によるアドバンスドコースです。

2) 研究会の開催

- 11月10日には、第51回九州新生児研究会の当番世話人となり、霧島いわさきホテルにて学術集会を開催しました。ソウル大学のKim教授他を招いての教育講演2題と一般演題19題と充実した研究会となりました。

3) 論文発表

- Yuko Maruyama, et al. : Fetal manifestations and poor outcomes of congenital cytomegalovirus infections: Possible candidates for intrauterine antiviral treatments. J. Obstet. Gynecol. Res. Vol.33, No.5: 619-623, 2007.
- 丸山有子: TORCH 症候群の予後 周産期医学 37(12):1595-1598, 2007.

4) 学会発表

- 第25回 産婦人科感染症研究会 (平成19年6月16日 東京)
丸山有子 他: シンポジウム: サイトメガロウイルスと母子感染. サイトメガロウイルス胎内感染の予後予測と周産期管理
- 第43回 日本周産期新生児医学会 (平成19年7月8-10日 東京)
丸山有子 他: サイトメガロウイルス胎内感染症を疑うべき新生児期臨床所見の検討

5) 講演会など

- 新生児セミナー (平成19年7月27日 鹿児島)
丸山有子: サイトメガロウイルス胎内感染症への積極的アプローチ --- 新生児科からみたこれからの周産期管理 ---
- 女医の会 (平成19年9月15日 鹿児島)
丸山有子: 新生児搬送のタイミング
- 院内講演会 (平成19年9月21日 院内)
丸山有子: 鹿児島の新生児医療と今給黎病院周産母子センター
- 沖縄周産期セミナー (平成19年9月29日 沖縄)
丸山有子: ウイルスの母子感染

6) 資格取得等

- 丸山有子: 周産期 (新生児) 専門医認定
3年前に周産期専門医制度がスタートしましたが、平成19年10月に、第1回目の専門医試験があり、全国で76名の新生児専門医が誕生しました。丸山も受験し、無事、新生児専門医第1期生となりました。
- 丸山有子: 日本周産期・新生児医学会による新生児蘇生法「専門」コースインストラクター認定

7) その他

- 平成20年2月8日には、10周年記念祝賀会兼古川秀子師長母子保健奨励賞受賞祝賀会を開き、院内からも多くの方々に参加していただきました。ありがとうございました。

【平成20年度の計画】

- 月1回の両親学級の開催
- 新人ナース対象の系統講義を行うこと
- 看護学生のNICU見学
- 療育指導外来の開始
- 新生児フォローアップ外来での臨床心理士による発達検査の導入
- 患者の監視培養の開始と定期的な環境の培養
- 病院全体の電子カルテ化に伴うNICU患者情報システムの導入を検討

周産母子センター(NICU・GCU)の増築・改装工事

新生児科部長 丸山 有子

平成19年10月22日より11月末まで、旧周産母子センターは閉鎖され、増改築工事が行われました。

【増改築に至った背景】

平成9年の開設以来10年が経ち、患者数の増加とともにNICUの業務も複雑化してきたため、従来の面積・設備のままでは、業務の安全性や効率性に問題がでてきていました。

また、10年来、当院周産母子センターは、鹿児島市立病院総合周産期母子医療センターの後方ベッドとしての役割を果たしてきました。すなわち、ハイリスク新生児をまず市立病院で入院管理し、急性期を過ぎたら当院NICUへ転院させます。そうすることで、次に出生する病的新生児のための空きベッドを確保できるので、鹿児島県では新生児の受け入れ先が無いということが、めったに起こらずに済んできました。しかし、ご存知のように昨今の周産期医療事情は年々その深刻度を増しており、県内に3カ所しか無いNICUを有する当院の役割は益々重要になり、従来よりも重症の児を管理できる施設へのステップアップが期待されるようになってきました。そのために、施設の拡張および機器の充実が必要でした。

さらに、NICUやGCUでは児の管理だけでなく、ファミリーケアが重要であるといわれています。児を虐待する親や育児ができない親が実際に存在するため、育児支援はさまざまな形で行われていますが、NICUに入院する児の家族に対しては、特に細やかな育児支援が必要です。GCUでは、ご両親の育児不安に対して個別に相談を受けたり、哺乳指導や沐浴指導などのサービスを提供したり、ご両親だけでなく祖父母を含めた家族全体に対する保健指導を行うことが必要ですが、従来の周産母子センターには、そのためのスペースが十分でなく、家族のプライバシーを守ることも困難でした。

これらの諸問題を解決するために、周産母子センターの増築・改装が行われることになりました。

【設 計】

NICU (Neonatal Intensive Care Unit : 新生児集中治療室) は、出生直後の早産児や病的新生児を収容し、呼吸管理などの集中治療を行って、赤ちゃんの命を守るための部屋です。十分な面積を確保して、急変時に迅速に対応できることを優先して設計しました。しかし同時に、明るい柄の壁紙や木製のブラインドなどを使用し、児の入院に伴うご家族の不安な気持ちを和らげることに配慮しました。また、従来よりご家族に好評だった大きな面会窓はそのまま活かすことにしました。

GCU (Growing Care Unit : 発育発達支援室) は、一般状態が落ち着いてきた児の成長・発達を手助けしつつ、退院に向けてご家族を支援するための部屋です。小さなスペースではありますが、アコーデオンドアで仕切ることができる個室(ファミリールーム)も3つ設けました。

デリケートな病状説明を行う場合などに、プライバシーを守ることに配慮した保健指導室を設けました。



NICU



GCU



ファミリールーム

【仮設病棟】

工事中は、二階西病棟の6人部屋に仮設病棟を作っただき診療を継続しました。普通の病棟に酸素と空気の配管や電源の増設をお願いし、病床と機材庫とナースステーションの機能を詰め込んだもので、“手狭”どころではなかったのですが、大過なく診療を続けられたことに一同ほっとしております。医師および看護スタッフの皆さんを始め、施設課や二階西病棟の皆様、その他各方面の皆様には大変お世話になり、深く感謝しております。この場をお借りして改めて御礼申し上げます。

【そして現在…】

分娩室から一枚の扉を開けばそこはNICUという、またとない好条件を活かして、院内出生の早産児を非常にスムーズに入院させることができます。また、市立病院から転院の赤ちゃん達を迎える医療機器も充実してきたので、初めはご家族も恐る恐る（いやいや？）転院してこられるのですが、きれいな新しい病棟で最新機器でケアされる我が子をご覧になっただけでまず安心され、退院する頃には転院してきたことを大変喜んでいただいているようです。また、GCUでの面会は、ほとんどがファミリールームを使用して行われるようになり、赤ちゃんとの時間を家族だけで静かに過ごしていただけるようになりました。出生直後から母子分離させられてしまった親子が、再び本来の関係に戻るために必要な時間を提供する場となっています。ちょっと居心地が良すぎるのか、なるべく長く入院させたい…などとおっしゃるご家族もおられ、困っている今日このごろです。

【今後の展望】

10年目にして、医師の体制が変わり、看護スタッフも相当数が入れ替わり、このように病棟も一新していただきました。新しいNICUは、9床稼働も可能な広さとなっているので、看護スタッフや医師の増員を計り、いずれは9床のNICUにしたいと考えております。また、県からの要請で地域周産期母子医療センターとしての申請を出すことになりました。今後は地域の周産期医療体制における当院の位置づけがより明確になると思われます。私たちは、当センターが社会から求められている役割をよく理解し、“新生”今給黎病院周産母子センターとして、今後ますます鋭意努力していきたいと思っています。

小児科

小児科部長 玉田 泉

【学会発表】

分娩後に infliximab を再投与し病勢をコントロールできた若年性特発性関節炎の 1 例

第 33 回九州リウマチ学会 大分 平成 19 年 3 月 10～11 日

根路銘安仁, 今中啓之, 野中由希子, 前野伸昭, 嶽崎智子, 有村温恵, 重森雅彦, 河野嘉文, 武井修治, 銚之原昌

Infliximab に switch 療法を行い良好な経過を認める若年性特発性関節炎(JIA)の 1 女児例

第 51 回日本リウマチ学会 横浜 平成 19 年 4 月 26～29 日

根路銘安仁, 今中啓之, 野中由希子, 前野伸昭, 嶽崎智子, 有村温恵, 重森雅彦, 銚之原昌, 武井修治

成長ホルモン治療を開始した成人成長ホルモン分泌不全症の 3 例

第 135 回日本小児科学会鹿児島地方会 鹿児島 平成 19 年 6 月 10 日

玉田 泉, 溝田美智代, 檜作和子, 大坪喜代子, 河野嘉文

医療機関における乳幼児健診のあり方に関する研究-保健所における乳幼児健診との比較

第 54 回日本小児保健学会 前橋 平成 19 年 9 月 20～22 日

白水美穂, 武井修治, 山下早苗, 銚之原昌, 折田勝郎

小児の血清 MMP-3 値

第 17 回日本小児リウマチ学会 横浜 平成 19 年 9 月 28～30 日

前野伸昭, 有村温恵, 野中由希子, 根路銘安仁, 森 浩純, 重森雅彦, 嶽崎智子, 今中啓之, 武井修治, 銚之原昌, 松木繁久, 河野嘉文

新生児にみられた自己免疫異常.NLE?Evans 症候群+SLE 疑いの一女児

第 17 回日本小児リウマチ学会 横浜 平成 19 年 9 月 28～30 日

嶽崎智子, 久保田智洋, 石井裕子, 赤池治美, 根路銘安仁, 野中由希子, 重森雅彦, 前野伸昭, 今中啓之, 武井修治, 銚之原昌

腹部症状が先行し、内視鏡検査で十二指腸炎、回腸潰瘍を認めたアレルギー性紫斑病の 14 歳女児例

第 136 回日本小児科学会鹿児島地方会 鹿児島 平成 19 年 10 月 14 日

玉田 泉, 堀之内兼一, 銚之原昌

周産期異常に伴う複合型下垂体機能低下症の成人例に対する成長ホルモン治療について

第 41 回日本小児内分泌学会 横浜 平成 19 年 11 月 7～9 日

玉田 泉, 溝田美智代, 檜作和子, 大坪喜代子, 池田さやか, 河野嘉文

インスリンアレルギーにより一時コントロールが困難となった1型糖尿病女児例

第41回日本小児内分泌学会 横浜 平成19年11月7～9日

池田さやか, 溝田美智代, 荒田道子, 檜作和子, 大坪喜代子, 玉田 泉, 河野嘉文

【学会・研修会参加、院外活動等】

- 第80回 日本内分泌学会学術総会 東京 平成19年6月14～16日 玉田 泉
- BCG 予防接種講習会 平成19年2月25日
- 子供予防接種週間予防接種実施 平成19年3月1日
- 市夜間急病センター懇談会 平成19年3月18日
- 桜ヶ丘東ソフトボールスポーツ少年団25周年記念大会医療協力 平成19年9月23日
- 南日本赤ちゃん健康相談会 平成19年10月20日
- 南九州小児科神経遺伝研究会 平成19年11月3日

泌尿器科

泌尿器科部長 中目 康彦

【平成 20 年 1 月～12 月手術統計】

分類	手術	件数
腎臓・尿管	腎摘除術	8
	腹腔鏡下腎摘除術	8
	腎部分切除術	6
	腎尿管全摘除術	5
	腹腔鏡下腎尿管摘除術	1
	腎盂形成術	1
	内視鏡的腎盂形成術	1
	腎生検	3
	腎盂切石術	1
	経皮的腎結石破砕術	1
	経尿道的尿管結石除去術	2
	尿管鏡検査	2
	尿管狭窄バルーン拡張術	2
	尿管皮膚瘻造設術	3
	膀胱	経尿道的膀胱腫瘍切除術
経尿道的電気凝固術		2
膀胱全摘除術		8
膀胱部分切除術		2
膀胱腔瘻閉鎖術		1
膀胱尿管逆流防止術		2
経尿道的膀胱結石破砕術		9
尿道	TVT 手術	1
	TOT 手術	1
	内尿道切開術	9
	コラーゲン注入術	3
前立腺	経尿道的前立腺手術	57
	前立腺全摘除術	23
	前立腺密封小線源療法	42
陰茎・精巣	陰茎部分切除術	1
	精巣固定術	3
	精巣摘除術	4
	会陰部壊死性筋膜炎	3
	顕微鏡下精索静脈結紮術	1
その他	内シヤント造設術	3
	尿膜管摘除術	3
	リンパ節廓清術	6
	その他	28
合計		336

眼科

眼科部長 佐藤 宏

【手術統計】

平成 19 年度 手術件数 1,040 件

内眼手術

疾患	術式	件数
白内障	PEA + IOL	700
	PECCE + IOL	7
	ICCE	1
	PECCE	4
	PEA	4
	2nd IOL	10
	後発白内障切開	0
	その他	3
緑内障	Iridectomy	0
	Trabeculectomy	10
	Trabeculectomy	7
	その他減圧手術	6
網膜・硝子体	網膜剥離 (Bacling のみ)	20
	裂孔原性網膜剥離 (Vit)	9
	眼内異物摘出術	0
	網膜硝子体手術 (上記以外)	115
強角膜	強角膜縫合術	2
角膜	角膜移植術	0
その他	(内眼手術)	0
	内眼手術合計	898

外眼手術

疾患	術式	件数
斜視	斜視手術	1
眼瞼	眼瞼下垂手術	35
	眼瞼内反症手術	12
	眼瞼外反症手術	1
	眼瞼形成術	0
	眼瞼腫瘤切除	12
	重瞼術	2
	眼球	眼球摘出術
涙器	涙嚢鼻腔吻合術	0
	涙小管縫合術	3
	その他涙器に関する手術	23
眼表面	翼状片手術	48
眼窩	視神経管開放術	0
	眼窩底骨折整復術	1
	眼窩壁骨折整復術	0
	眼窩内腫瘍	0
	眼窩内異物摘出術	0
その他	(外眼手術)	3
	外眼手術合計	142

【患者数】

新患者数 2193
 再来患者数 15649
 合計 17842

耳鼻咽喉科

耳鼻咽喉科部長 宮崎 康博

【平成19年度手術件数】

- a) 耳科領域 62 件
 - 1. 先天性耳瘻管摘出術 9 件
 - 2. 鼓膜チューブ留置術（全麻） 13 件
 - 3. 鼓膜閉鎖術 3 件
 - 4. 鼓膜形成術 16 件
 - 5. 鼓室形成術 16 件
 - 6. 顔面神経減荷術 2 件
 - 7. その他 3 件
- b) 鼻科領域 145 件
 - 1. 鼻中隔矯正術、下鼻甲介切除術 42 件
 - 2. 鼻外副鼻腔手術 5 件
 - 3. 鼻内副鼻腔手術（内視鏡下） 90 件
 - 4. 鼻内副鼻腔手術（非内視鏡下） 2 件
 - 5. 鼻・副鼻腔腫瘍手術 1 件
 - 6. 鼻骨骨折整復術 4 件
 - 7. その他 1 件
- c) 口腔・上中咽頭領域 187 件
 - 1. 口蓋扁桃手術 152 件
 - 2. アデノイド切除術 17 件
 - 3. 舌腫瘍手術 6 件
 - 4. 軟口蓋形成術 2 件
 - 5. その他 10 件
- d) 喉頭・気管・下咽頭・食道領域 85 件
 - 1. 気管切開術 22 件
 - 2. 内視鏡下手術
 - i) 声帯ポリープ・結節切除術 22 件
 - ii) 喉頭腫瘍 24 件
 - iii) 下咽頭腫瘍 9 件
 - 3. 食道異物摘出術 2 件
 - 4. 喉頭腫瘍切除・全摘術 4 件
 - 5. 音声機能改善手術 1 件
 - 6. その他 1 件
- e) 顔面・頸部領域 86 件
 - 1. 唾石（含顎下腺）摘出術 8 件
 - 2. がま腫手術 2 件
 - 3. 唾液腺腫瘍手術 28 件
 - 4. 頸瘻・頸嚢摘出術 9 件

5. 甲状腺腫瘍手術	14件
6. 頸部郭清術	8件
7. 顔面外傷	1件
8. その他	16件

平成19年度頭頸部悪性腫瘍症例

a) 口唇および口腔	9例
b) 鼻および副鼻腔	1例
c) 上咽頭	1例
d) 中咽頭	2例
e) 下咽頭	8例
f) 喉頭	6例
g) 唾液腺	1例
h) 甲状腺	9例
i) その他	1例
計	38例

平成19年度の手術のべ件数は565件、新規の悪性腫瘍症例は38例でした。

【主催学会】

第24回鹿児島集談会	平成19年5月26日	ホテル京セラ
第25回鹿児島集談会	平成19年12月1日	ホテル京セラ

【学会発表】

第24回鹿児島集談会	
平成19年5月26日	
診断が困難であった頭頸部癌2症例	宮崎康博
長期反復の鼻出血症例	今村洋子

第25回鹿児島集談会	
平成19年12月1日	
鼻出血で手術を要した一症例	一氏佳代子
当院における咽頭食道異物症例の検討	宮崎康博

皮膚科

皮膚科部長 児浦 純生

平成19年度 外来患者数の動態はグラフに示したとおりです。本年度も例年通り皮膚科関連学会（第106回日本皮膚科学会総会、第59回日本皮膚科学会西部支部学術大会、年3回実施される日本皮膚科学会鹿児島地方会、年4回の鹿児島県皮膚科医部会、他）に参加しました。私個人での学術発表は本年度はありませんでした。

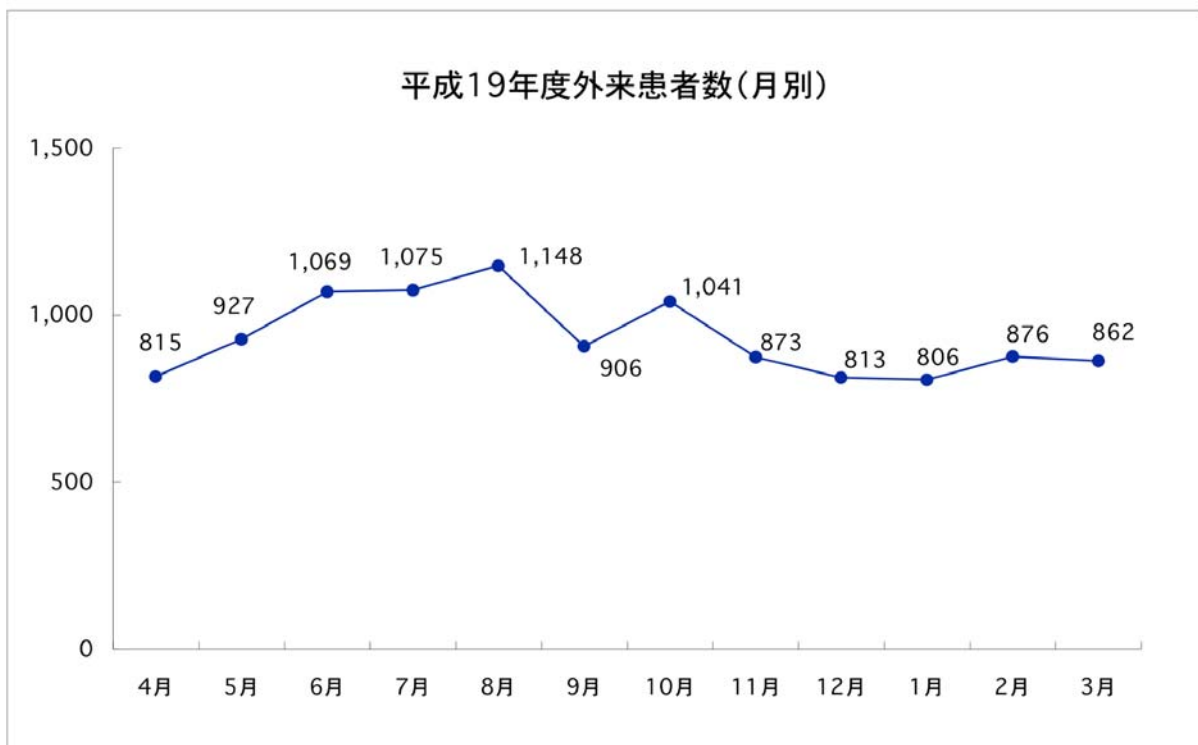
人事に関して特別なものはなく、金曜日、土曜日の外来診療は昨年引き続き鹿児島大学の先生が交代で担当しました。

他科入院の患者様、並びに皮膚科入院患者様の診療もこれまでどおり実施しました。

鹿児島医療センターへの往診も例年通りやっております。

電子カルテ上での皮膚疾患臨床写真による皮膚科疾患診療も時には実施して在宅医療のお手伝いもしております。

この年齢になってなお、鹿児島県STD研究会や鹿児島県アレルギー懇話会の運営委員、それに臨床教授も継続させていただいております。ボランティア活動のひとつと考えさせてもらっております。



麻酔科

麻酔科部長 池田 耕自

今年度における麻酔科の陣容は、4人の麻酔科常勤医と他科からの研修医1から2人、非常勤医1から2人の6から8人であった。さらに卒後研修医3人の研修を行った。
平成19年度の今給黎総合病院麻酔科管理症例数は2395件であった。この内、緊急手術は204件であり全体の8.5%程度を占める。手術室は6室有り、最大で7件の同時並行手術が可能である。
各科別の手術件数は、整形外科722件(30%)、耳鼻咽喉科502件(21%)、外科254件(11%)、泌尿器科204件(9%)、産科婦人科219件(9%)、形成外科190件(8%)、呼吸器外科155件(7%)、歯科口腔外科124件(5%)、脳神経外科14件(1%)、眼科9件(1%)、その他2件(0.2%)といった現状であった。

麻酔症例内訳

麻酔症例内訳	
総症例数(緊急)	2395 (204)
全身麻酔	1382
全麻+硬麻等	379
脊麻・硬麻等	582
伝達麻酔	8
その他	44

各科別麻酔依頼件数(緊急)

各科別麻酔依頼件数(緊急)	
整形外科	722 (50)
耳鼻咽喉科	502 (6)
外科	254 (71)
泌尿器科	204 (4)
産科婦人科	219 (62)
形成外科	190 (6)
呼吸器外科	155 (2)
歯科口腔外科	124 (1)
眼科	9 (0)
脳神経外科	14 (1)
その他	2 (1)

ICU

平成 19 年度の ICU 入室件数は 509 件である。各科の内訳は以下の通りである。

各科別 ICU 入室者数	
科名	入室者数 (名)
外科	153
呼吸器外科	117
泌尿器科	64
脳神経外科	43
整形外科	33
呼吸器内科	32
神経内科	21
麻酔科	14
循環器内科	11
産婦人科	8
総合内科	5
耳鼻咽喉科	3
形成外科	3
消化器内科	2
合計	509

麻酔科管理患者は 14 名で内訳は急性薬物中毒 5 名、ショック 2 名、重症急性膵炎 3 名、心肺蘇生後 3 名、肝不全 1 名であった。

麻酔科医名

池田 耕自

増田 美奈 (平成 17 年 4 月～平成 19 年 5 月)

西山 淳 (平成 17 年 10 月～)

岡山 奈穂子 (平成 18 年 7 月～)

星野 一 (平成 19 年 6 月～平成 20 年 3 月)

安藤 慶 (平成 19 年 4 月～6 月)

中村 俊介 (平成 19 年 4 月～9 月)

藤元 祐介 (平成 19 年 10 月～平成 20 年 2 月)

今村 勝行 (平成 20 年 3 月～)

永田 智美 (平成 19 年 4 月～5 月)

大竹山 令奈 (平成 19 年 8 月～9 月)

砂永 祐介 (平成 19 年 10 月～11 月)

放射線科

放射線科部長 井手上 淳一

平成 20 年度 6 月より当院で PACS の更新とフィルムレスとなりました。それに向け平成 19 年度は PACS の更新とフィルムレスへの準備期間となりました。

今年度は昨年と同じく 4 人の常勤（大久保 幸一昭和会クリニック院長・中禮 久彦・井手上 淳一・伊藤 宗一郎（H20 年 9 月より立山 暁大と交代となります。）と 2 人の非常勤で頑張っています。

治療部門は中禮先生を中心に症例毎に適切な治療法を治療カンファレンスで検討しています。平成 19 年 10 月に装置の更新に伴い精度の高い治療が出来るようになりました。また、11 月には前立腺の小線源療法も始まりました。さらに充実してきました。

診断部門にては使用機器類は昨年度と変更なく、件数もほぼ例年通りでした。当院では冠動脈 CT を早くからはじめ、循環器カンファレンス等で画質の改善と詳細な評価をしてきました。件数は少しずつ増えていきましたが、逆に DSA は他の検査機器に代改され検査としては減少しています。主に治療目的として肝癌や腎癌への TAE をはじめ、膀胱腫瘍や頭頸部癌への動注療法や救急疾患の中で外傷等による臓器損傷・肺炎や喀血などに対して積極的に取り組んでいます。

カンファレンスは他科との合同で整形・呼吸器・消化器・循環器を定期的に、脳神経系カンファレンスを非定期（月 1 回位）に行われております。

	件 数
1.一般撮影	46,149
2.透視・造影撮影	859
3.骨塩定量測定	524
4.X 線 CT	12,138
5.DSA/Angio	112
6.RI	1,143
7.MRI	5,618
8.放射線治療	5,823
9.前立腺シード	14

主病名別患者数

口腔底癌	4
食道癌	23
大腸癌	9
肝癌	8
胆嚢癌	4
膵癌	1
肺癌	28
胸壁悪性腫瘍	1
子宮癌	2
前立腺癌	5
頸部リンパ節転移	3
縦壁リンパ節転移	1
左兪径部リンパ節転移	1
転移性肺腫瘍	2
転移性気管腫瘍	2
腹膜播種	1
転移性脳腫瘍	9
転移性骨腫瘍	22
甲状腺大細胞型びまん性リンパ腫	1
形質細胞性多発性骨髄腫	1
脱水症	1
肺動静脈瘻	1
パージャヤー病疑い	1
腰痛症	1
肺非結核性抗酸菌感染症	1
合計	133

悪性新生物原発巣別患者数

口腔底癌	4
食道癌	26
大腸癌	16
肝癌	13
胆嚢癌	4
膵癌	2
肺癌	47
胸壁悪性腫瘍	1
子宮癌	2
前立腺癌	6
乳癌	2
食道胃接合部癌	1
大腿部胞巣状軟部肉腫	1
胃癌	2
合計	127

連携診療科

連携診療科部長 松添 大助

平成 19 年度の救急車搬入台数は 1970 台、総患者数 2028 人（うち CPA 22 人）でした。表 1 に月別の搬入台数を示しています。冬場に多いかと思いきや、特に季節による差はありませんでした。

年齢別では（表 2）、20 才代にひと山あり、50 才以降で増加して 70 才以降が顕著に多くありました。20 才代は交通事故が多く、50 才以降から慢性疾患が増え、70 才以降では他医療機関からの重症紹介例が多いようです。地区別では（表 3）、鹿児島市内からの搬入が 81.9%でしたが、屋久島、種子島、大島、十島村からヘリコプターなどを使っての搬送が 14 例、宮崎県からの搬送が 3 例ありました。

（表 1） 月別救急車搬入台数 （台）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
時間内	125	98	84	92	88	103	84	93	107	83	94	101	1152
時間外	58	77	59	76	73	70	56	74	77	65	67	66	818
計	183	175	143	168	161	173	140	167	184	148	161	167	1970

（表 2） 年齢別

年齢（才）	0	1-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80-89	90-	計
人数（人）	80	168	211	175	153	226	223	377	312	103	2028

（表 3） 地区別

地区	鹿児島	始良	日置	川薩	川辺	指宿	出水	肝属	曾於	伊佐	熊毛	大島	鹿児島郡	宮崎	計
人数（人）	1660	153	83	32	30	18	4	19	3	9	11	2	1	3	2028

病理部

病理部部长 田代 幸恵

病理部スタッフ：

医師

白濱 浩（日本病理学会病理専門医、日本臨床細胞学会細胞診専門医、
臨床検査管理医）

田代 幸恵（日本病理学会病理専門医、日本臨床細胞学会細胞診専門医）

佐藤 栄一（鹿児島大学医学部名誉教授、日本病理学会病理専門医）

技師

徳永 敬之（臨床病理技術士）

肥後 真（臨床検査技師、国際細胞検査士）

新村 泰子（臨床検査技師）

高橋 奈見（臨床検査技師、国際細胞検査士）

組織診および細胞診検体数

	H16年度	H17年度	H18年度	H19年度
組織件数	3,804	3,791	4,110	3,791
細胞診件数	3,662	3,300	3,174	3,315

細胞診診断統計（2007年4月1日～2008年3月31日）

	IIIa		IIIb		Class V	Not diagnostic	合計
	Class I	Class II	Class III	Class IV			
膣頸部	1258	183	65 3	9 11	8	0	1537
内膜	130	47	1 1	0 1	1	0	181
呼吸器	329	100	0 31	0 30	129	0	619
体腔液	80	96	0 11	0 8	58	0	253
尿	253	178	0 20	0 6	31	0	488
その他	78	53	0 24	0 14	26	42	237
合計	2128	657	66 90	9 70	253	42	3315

組織診断統計（2007年4月1日～2008年3月31日）

	生検		内視鏡切除		切除		合計
	悪性		悪性		悪性		
心 血 管	0	0	1	0	0	0	1
血液・骨髄・脾	80	27	51	18	4	1	135
リンパ節	41	27	26	22	269	102	336
鼻・咽頭・喉頭	78	32	49	1	72	4	199
肺	139	62	7	3	108	61	254
胸膜・縦隔・腹膜	15	11	0	0	30	11	45
口腔・唾液腺	26	9	5	1	125	9	156
食 道	102	31	3	2	11	8	116
胃・十二指腸	1093	61	14	4	43	32	1150
小 腸	33	3	1	0	24	7	58
大腸・肛門	312	62	370	33	124	60	806
肝 胆 膵	4	4	1	0	42	10	47
腎 尿 路 男 性	120	70	114	55	106	61	340
女 性 器	76	27	36	1	212	45	324
乳 線	13	4	2	1	9	6	24
内 分 泌	7	1	2	0	36	13	45
中枢末梢神経	0	0	1	0	3	2	4
耳 ・ 眼	3	1	2	0	8	0	13
皮 膚	101	20	2	0	768	93	871
骨 ・ 関 節	20	8	2	0	16	1	38
軟 部	8	5	0	0	104	7	112
そ の 他	0	0	57	0	11	0	68
合 計	2271	465	746	141	2125	533	5142

剖検例

剖検番号	年齢・性	出 所	主要剖検診断
QA-2007-1	59M	呼吸器内科	肺癌，間質性肺炎

- ・術中迅速診断：319件（内、院外からの依頼：70件）
（H16年度：389件、H17年度：229件、H18年度：306件）
- ・院外からの血液疾患関連Marker検索および診断依頼：30件
（H16年度：46件、H17年度：30件、H19年度：33件）
- ・院外からの免疫染色依頼（パラフィン切片による）：924件
（H16年度：672件、H17年度：701件、H16年度：781件）

【学会活動】

H19. 4. 24 第101回鹿児島病理集談会 皮膚腫瘍 白濱浩（今給黎総合病院病理）

【論文】

希な手指末節骨への転移を認めた肝細胞癌の1例

H19. 11 鹿児島市医報

尾辻正樹, 松永俊二, 古賀公明, 川畑直也, 湯浅伸也, 河村一郎, 今給黎尚典, 白濱浩, 田代幸恵,
樋脇卓也

Alpha-fetoprotein (AFP)-producing adrenocortical carcinoma--long survival with various
therapeutic strategies including a lung resection: report of a case.

H20. 2 Surgery Today. 2008;38(3):275-8

Hamanaka W, Yoneda S, Shirakusa T, Shirahama H, Tashiro Y, Iwasaki A, Shiraishi T, Tsuru
H.

Department of Thoracic Surgery, Imakiire General Hospital

歯科口腔外科

歯科口腔外科部長 吉田 雅司

【一年間の診療活動と実績】

平成20年8月1日に歯科口腔外科が新設され、現在は、歯科医師2名、歯科衛生士1名、歯科技工士1名、および受付1名の常勤スタッフで、当院の入院患者やスタッフ、さらにご紹介いただいた患者様を診療しています。さらに、次のような専門外来を行っており、患者様の多様なニーズにお答えしております。

- ・ 歯周病科外来:主に口腔ケアを行います。
- ・ 補綴科外来:腫瘍切除後の顎補綴や顎関節症における咬合チェックなどを行います。
- ・ 口腔ペインクリニック:顎顔面領域の神経痛や麻痺、痺れといった神経症状の治療を行います。
- ・ 漢方歯科外来:口腔粘膜疾患の診断・治療を行います。
- ・ お口のカウンセリング外来:様々なストレスに起因する口腔疾患における患者様のお話をお聞きして、適切なアドバイスを行います。
- ・ スポーツ歯科外来:スポーツ選手に対してマウスガードの作成や咬み合わせのチェックを行います。

一方、入院では、外科的矯正術を中心に、有病者の抜歯や歯科治療、およびさまざまな口腔外科的疾患の手術や治療に対応しております。

本院は、他科との連携が非常にスムーズで、有病者の患者様はもちろんのこと、常に安心できる歯科医療を提供できる環境が整っております。また、看護師やその他のスタッフの方々の献身的な支えがあって、充実した診療が行えていると思います。さらに、努力し、今給黎総合病院・昭和会クリニックから情報発信が出来るよう、頑張りたいと思います。(文責:吉田雅司)

【統計】

外来患者数

5508名(新患1191名)

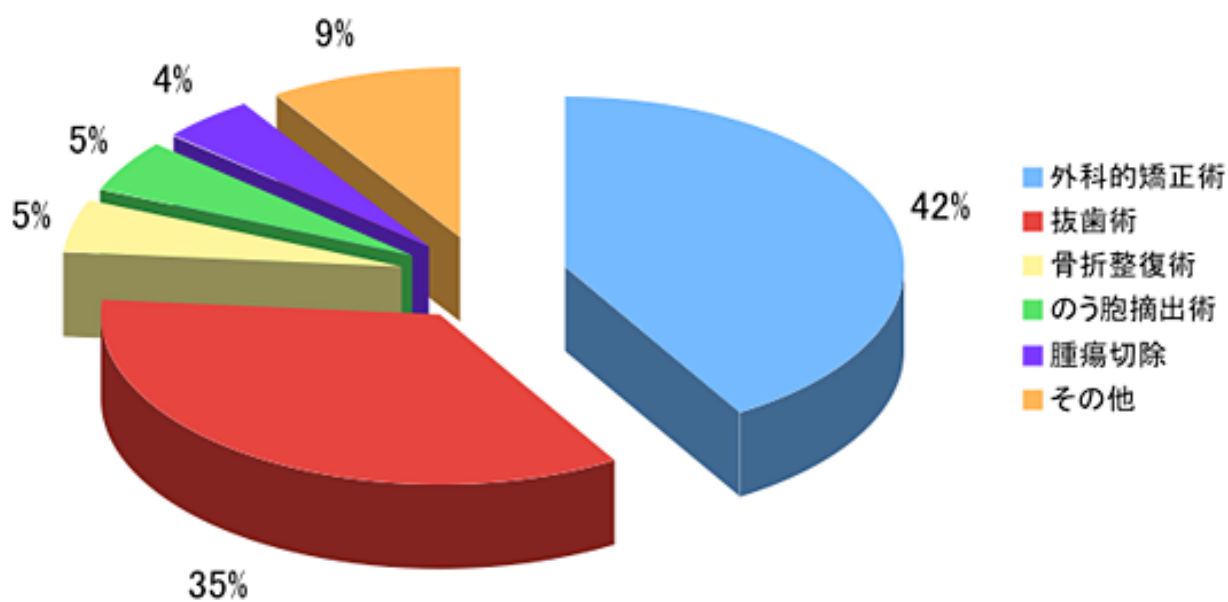
入院患者数

134名

手術件数

140件(平成19年4月～平成20年3月)

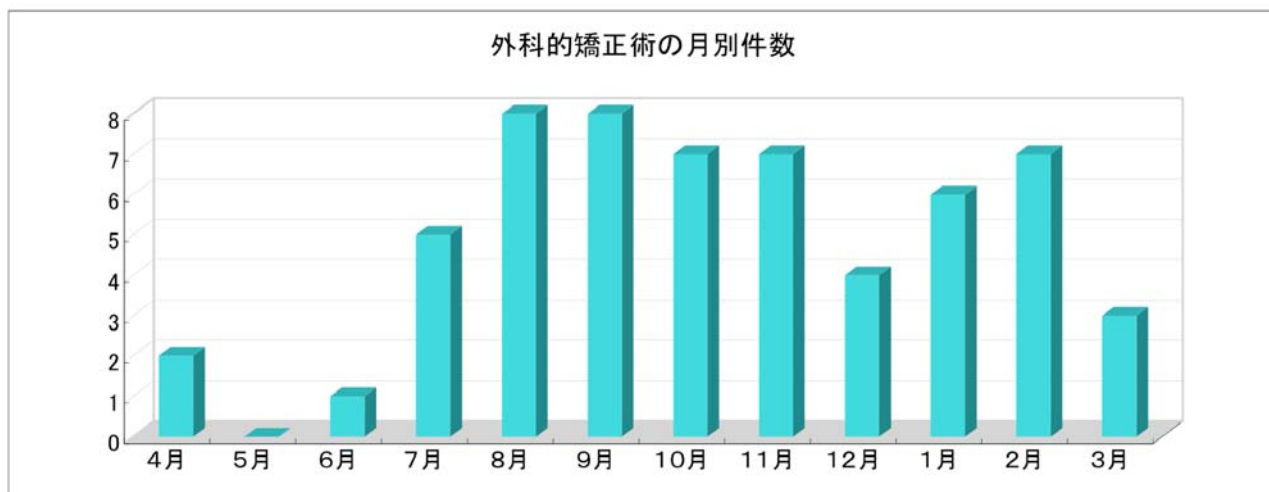
	外科的矯正術	抜歯術	骨折整復術	のう胞摘出術	腫瘍切除	その他
手術件数	58	49 (有病者 13)	7	7	6	13



平成 19 年 4 月 1 日から平成 20 年 3 月 31 日の 1 年間に、今給黎総合病院手術室で行った手術件数は 140 例で、平均年齢 34.3 歳（1～89 歳）、男性 56 例：女性 94 例。

外科的矯正術（平成 19 年度）

類別	術式	計
上顎のみ	LeFort	2
	LeFort+骨移植	1
上下顎	LeFort+SSRO	2
下顎のみ	SSRO	46
	SSRO+舌縮小術	4
	SSRO+拔牙	2
	SSRO+オトガイ形成術	1
	計	58



【学術】

論文

- 1) 吉田雅司:スポーツ歯科の現状と展望. 医療管理委員会だより第3号、_鹿児島県歯科医師会
- 2) 近藤康得¹⁾、吉田雅司、高橋孝喜²⁾:ラット脱血モデルにおける経口補水液投与の循環血液量補充効果、自己血輸血⁽¹⁾大塚製薬工場、⁽²⁾東京大学医学部病院輸血部)
- 3) 山口孝二郎、吉田雅司
- 4) 吉田雅司:学校歯科医ガイドブック改定委員会編;学校歯科ガイドブック;第7章最近の話題、第8節スポーツ歯科、P101-108,朝日印刷、鹿児島、2008

学会発表

- 1) 吉田雅司、吉田礼子¹⁾、副島和久²⁾:高校野球選手における咬み合わせと動体視力との関連性、第18回日本スポーツ歯科医学会総会、平成19年6月60日(那覇市)⁽¹⁾鹿児島大学病院スポーツ歯科外来、⁽²⁾宮崎大学医学部附属病院)
- 2) 有馬 百合子¹⁾、田川 愛子¹⁾、徳 恵梨香¹⁾、今堀 貴之²⁾、吉田 雅司:電子カルテオーダーリングシステムにおける自己血採血、第15回鹿児島自己血輸血療法研究会、平成19年7月19日(鹿児島市)(今給黎総合病院 ¹⁾看護部、²⁾中央臨床検査部)
- 3) 高橋 久雄¹⁾、吉田雅司、他:2006年第4回スペシャルオリンピック日本夏季ナショナルゲーム 熊本～第1報 第3回冬季ナショナルゲーム 長野(2004)と第4回夏季ナショナルゲーム 熊本(2006)参加アスリートの口腔内状況の比較～、24回有限責任法人日本障害者歯科学会学術大会、平成19年11月25日(長崎市)
- 4) 近藤康得¹⁾、吉田雅司、高橋孝喜²⁾:ラット脱血モデルにおける経口補水液投与の循環血液量補充効果(2)、第21回日本自己血輸血学会総会、平成20年3月7日(久留米市)⁽¹⁾大塚製薬工場、⁽²⁾東京大学医学部病院輸血部)
- 5) 有馬 百合子¹⁾、田川 愛子¹⁾、徳 恵梨香¹⁾、今堀 貴之²⁾、吉田 雅司:当院における貯血式自己血輸血の現状、第21回日本自己血輸血学会総会、平成20年3月7日(久留米市)(今給黎総合病院 ¹⁾看護部、²⁾中央臨床検査部)

講演、その他

- 1) 吉田雅司:スポーツ歯科医の国際医療活動、NHKラジオ「ラジオタ刊」、平成19年5月14日(東

京)

- 2) 吉田雅司:スポーツと歯、NHK教育テレビ「視点論点」、平成19年5月18日(東京)
- 3) 吉田雅司:スポーツと歯、鹿児島県ソフトボールスポーツ少年団総会、平成19年6月24日(鹿児島市)
- 4) 吉田雅司:マウスガードの有効性と製作法、デンタルフェア ミニセミナー、平成19年7月21日(鹿児島市)
- 5) 吉田雅司:鹿児島探訪一国際貢献一「医療国際ボランティア活動一君はウィリアム・ウィルスになれるか」、鹿児島大学講義、平成19年10月31日(鹿児島市)
- 6) 吉田雅司:スポーツと歯、第24回始良地区学校保健研究協議会「生涯にわたって心身の健康づくりに努める児童生徒の育成をめざして」～主体的に健康づくりに取り組む子どもの育成をめざして～、平成19年12月7日(国分市)

研究会開催状況

第14回鹿児島自己血輸血療法研究会:平成19年7月19日、今給黎総合病院講義室

第3回鹿児島スポーツ医学歯学勉強会:平成20年2月9日、今給黎総合病院講義室

第2回口腔軟組織を考える会:平成20年3月10日、鹿児島県歯科医師会館

【スタッフ紹介】

- ・ 吉田雅司(歯科医師)今給黎総合病院常勤、専門分野:歯科口腔外科
- ・ 赤田典子(歯科医師)昭和会クリニック常勤、専門分野:歯科口腔外科
- ・ 塘垂佳音(歯科技工士)
- ・ 永野恵理(歯科衛生士)

【院外活動(ボランティアなど)】

2007年度ミャンマー医療隊:平成19年3月11～18日、ヤンゴン市(ミャンマー連邦) <吉田 参加>